

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 22 年 6 月
神戸大学

目 次

〔教 育〕

資料 1	計画【2】	神戸大学大学教育推進機構の改組（案）	1
資料 2	計画【2】	神戸大学大学教育推進機構概念図	2
資料 3	計画【5-2】	大学院研究科における人材養成目的等一覧	3
資料 4	計画【7-1】	シラバス「神戸大学史」	12
資料 5	計画【7-1】	シラバス「職業と学びーキャリアデザインを考える」	13
資料 6	計画【14-2】	「授業評価アンケート」及び「卒業・修了時の学生へのアンケート 結果	15
資料 7	計画【17-1】	平成 21 年度全学キャリア・就職ガイダンス等の実施報告	22
資料 8	計画【17-1】	学生取材による情報誌発行、JOB Guidance の実施	23

〔研 究〕

資料 9	計画【40-2】	寄附講座概要	25
------	----------	--------	----

〔「改善を要する点」についての改善状況〕

資料 10	研究活動を発展させるための諸施策への反映事例	26
-------	------------------------	----

神戸大学大学教育推進機構の改組（案）

1 改組の目的

「神戸大学ビジョン2015」の実現、「第二期中期目標・中期計画」の達成に向けて、教育担当理事を中心とした教育マネジメント体制の下、戦略的な教育改革を全学的に推進し、かつ本学における教育体制を強化することを目的として、大学教育推進機構（以下「機構」という。）を改組する。

2 現状と課題

現在の機構は、神戸大学大学教育研究センターが担ってきた全学共通授業科目に係る教育についての企画、立案、実施、評価等の機能及び大学教育等の改革、充実、開放等に関する調査研究機能を、更に拡充・発展させるとともに、全学共通教育全体を把握し、統括する部門の強化と責任体制をより明確にすることを目的として、平成17年7月に大学教育研究センターを改組し設置された。

平成19年6月には、大学教育の実質化の企画立案等を行う組織として機構内に「大学教育推進本部」が設置され、それに併せて機構の教授会である「企画運営委員会」の所掌事項に全学的な教育戦略の方針に関すること等が付加され、全学共通教育を含めた大学教育全般について審議することとなった。

しかしながら、大学教育推進本部で策定した全学的な施策について、現在の企画運営委員会の審議だけでは展開しにくい状況にある。

また、全学委員会である教務委員会と機構内にある大学教育推進本部や企画運営委員会との役割分担や位置付けが必ずしも明確でなく十分な機能を果たせていない。

このような状況から、機構のみならず教育に係る委員会を含めて抜本的な見直しを行い、本学の教育マネジメント体制を再構築する必要がある。

3 改組の概要

- (1) 機構内の大学教育推進本部を「大学教育推進部」に改め、既設の「全学共通教育部」及び「大学教育支援研究推進室」との役割分担を明確にする。
- (2) 大学教育推進部は大学（学部・大学院）教育に関する全学的な取組の実施に関すること等の業務を、全学共通教育部は全学共通授業科目の実施に関すること等の業務を、大学教育支援研究推進室は大学教育の推進に係る調査研究及び支援に関すること等の業務をそれぞれ行う。
- (3) 企画運営委員会を廃止し、機構の教授会として各研究科等からの委員を含めて構成される「大学教育推進委員会」を設置し、全学的な教育戦略の方針、機構の運営に関すること等について審議する。
- (4) 全学委員会である教務委員会を大学教育推進部に「全学教務委員会」として取り込み、大学教育に関する全学的な取組の実施に関すること等について審議し、また、新たに大学教育推進部に「全学評価・FD委員会」を設置し、大学教育に関する全学的な取組の点検・評価に関すること等について審議する。
- (5) さらに、現在学長の下に置かれている大学教育委員会及びその専門委員会である大学教育推進委員会を廃止し、両委員会での審議事項を今後は教育研究評議会において行うよう機能の集約化を図る。

4 改組の時期

平成22年4月1日

神戸大学大学教育推進機構概念図

学 長

教育研究評議会

〔審議〕 大学教育の推進に関する基本方針・重要事項等について審議

大 学 教 育 推 進 機 構

〔業務〕 1 大学教育の推進のための全学的な取組に係る企画立案及び評価に関すること。
2 全学共通教育に係る教育課程の編成並びに全学共通教育の実施及び担当教員に関すること。
3 大学教育の推進に係る研究及び大学教育の支援に関すること。
4 その他前条の目的を達成するために必要なこと。

〔職員〕 ① 機構長
② 副機構長
③ 大学教育推進部長
④ 全学共通教育推進部長
⑤ 大学教育推進部長
⑥ 大学教育推進部長
⑦ 大学教育推進部長
⑧ その他

大 学 教 育 推 進 委 員 会

〔審議〕
1 大学教育の推進のための全学的な取組に係る企画立案に関すること。
2 大学教育の推進に係る教育課程の編成及び評価に関すること。
3 全学共通教育の推進に関する調査研究に関すること。
4 神戸大学大学教育推進機構（以下「機構」という。）の専任教員の人事に関すること。
5 機構の運営に関すること。
6 機構の施設及び設備に関すること。
7 機構の運営に関する非常勤講師に
8 機構の施設及び設備に関する非常勤講師に
9 その他

〔委員〕 ① 機構長
② 副機構長
③ 大学教育推進部長
④ 全学共通教育推進部長
⑤ 大学教育推進部長
⑥ 大学教育推進部長
⑦ 大学教育推進部長
⑧ その他

大学教育推進部

〔業務〕
1 大学教育の推進のための全学的な取組の実施に関すること。
2 大学教育に関する評価及びフィードバックに関する調査研究に関すること。
3 専門教育と全学共通教育の連携に関すること。
4 その他他推進部の業務を実施するために必要なこと。

〔職員〕 ① 大学教育推進部長
② 大学教育推進部副部長

全学教務委員会

〔審議〕 次の事項を審議
1 大学教育に関する全学的な取組の実施に関する調査研究に関すること。
2 大学教育の推進に係る教育課程の編成及び評価に関する調査研究に関すること。
3 大学教育の推進に係る教育課程の編成及び評価に関する調査研究に関すること。
4 大学教育の推進に係る教育課程の編成及び評価に関する調査研究に関すること。
5 その他

〔委員〕 ① 大学教育推進部長
② 大学教育推進部副部長
③ 大学教育推進部副部長
④ 大学教育推進部副部長
⑤ 大学教育推進部副部長

全学評価・F・D委員会

〔審議〕 次の事項を審議
1 大学教育に関する全学的な取組の実施に関する調査研究に関すること。
2 大学教育の推進に係る教育課程の編成及び評価に関する調査研究に関すること。
3 大学教育の推進に係る教育課程の編成及び評価に関する調査研究に関すること。
4 大学教育の推進に係る教育課程の編成及び評価に関する調査研究に関すること。
5 その他

〔委員〕 ① 大学教育推進部長
② 大学教育推進部副部長
③ 大学教育推進部副部長
④ 大学教育推進部副部長
⑤ 大学教育推進部副部長

大学教育支援研究推進室

〔業務〕
1 大学教育の推進に係る調査研究に関すること。
2 大学教育の推進に係る調査研究に関すること。
3 大学教育の推進に係る調査研究に関すること。
4 神戸大学大学教育推進機構全学共通教育推進協議会規程第7条第1項に定める専門委員会に関すること。
5 その他他推進部の業務を実施するために必要なこと。

〔職員〕 ① 大学教育支援研究推進室長
② 研究推進室の職員

大学教育支援研究推進室会議

〔業務〕 大学教育の推進に関する研究・支援
〔構成〕 ① 大学教育支援研究推進室長
② 研究推進室員

教職課程推進委員会 高大連携推進専門委員

共通教育部門

（部門長：全学共通教育部長）

全学共通教育部

〔業務〕
1 全学共通授業科目（以下「授業科目」という。）の実施に関する調査研究に関すること。
2 授業科目の調査研究に関する調査研究に関すること。
3 授業科目の調査研究に関する調査研究に関すること。
4 授業科目の調査研究に関する調査研究に関すること。
5 その他他推進部の業務を実施するために必要なこと。

〔職員〕 全学共通教育部長

外国語教育部門

（部門長：国際コミュニケーションセンター長）

全学共通教育運営協議会

〔審議〕 全学共通授業科目の実施に係る教務・学共に関する事項
1 全学共通授業科目の実施に係る教務・学共に関する事項
2 全学共通授業科目の実施に係る教務・学共に関する事項
3 全学共通授業科目の実施に係る教務・学共に関する事項
4 全学共通授業科目の実施に係る教務・学共に関する事項
5 その他

〔委員〕 ① 全学共通教育部長
② 全学共通教育部副部長
③ 全学共通教育部副部長
④ 全学共通教育部副部長
⑤ 全学共通教育部副部長

共通教育支援室

〔業務〕 全学共通教育の支援等
〔職員〕 ① 共通教育支援室長
② 共通教育支援室員
③ 共通教育支援室員
④ 共通教育支援室員

大学院研究科における人材養成目的等一覧

研究科・専攻名	改組の実施状況	人材の養成に関する目的(その他の教育研究上の目的 (大学ホームページより抜粋))	履修課程・履修コース／プログラム等	各コース／プログラムの概要 (各研究科HP抜粋)
人文学研究科	H19.4 文学研究科及び文化学研究科を改組し、人文学研究科を設置	人類がこれまで蓄積してきた人間や社会に関する古典的な文献の原理論的研究とフィールドワークを重視した社会文化の動態的分析を通して、新たな社会的規範と文化の形成に寄与する教育研究を行っています。		
文化構造専攻		人類がこれまで蓄積してきた人間や社会に関する古典的な文献の原理論的研究を通して、新たな社会的規範と文化の形成に寄与する教育研究を行うとともに、前期課程においては、人文学の基礎的な方法を継承しつつ、個々の文化現象の現代的意味を問うことのできる基礎的能力を備え、人文学を知識・基礎社会に活かすことのできる人材を養成することを目的とし、後期課程においては、人文学の高度な研究法を継承しつつ、新たな社会的規範と文化の形成に寄与する能力や、共同研究を企画し、組織する能力を持つ人材を養成することを目的としています。		・現代GP「地域歴史遺産の活用を図る地域リーダー養成」事業、 魅力ある大学院教育(アジア・ディプロマ) 「国際交流と地域連携を統合した人文学教育」などの支援を受け、リーダー養成のための教育プログラムの開発に努めました。その結果、開発された教育プログラムが、2007年度から文学部と大学院人文学研究科の正式科目として採用され、特に「地域歴史遺産活用研究」「地域歴史遺産活用演習」(前期課程)「地域歴史遺産活用企画演習」(後期課程)の三科目が、人文学研究科の選定必修共通科目として位置づけられました。
社会動態専攻		フィールドワークを重視した社会文化の動態的分析を通じ、新たな社会的規範と文化の形成に寄与する教育研究を行うとともに、前期課程においては、社会文化の動態的分析の基礎的な能力を備え、人文学を知識・基礎社会に活かすことのできる人材を養成することを目的とし、後期課程においては、社会文化の高度な動態的分析能力を備え、新たな社会的規範と文化の形成に寄与できる能力や、共同研究を企画し、組織する能力を持つ人材を養成することを目的としています。	「地域歴史遺産の活用を図る地域リーダーの養成」事業(現代GP) 「国際交流と地域連携を統合した人文学教育」事業(魅力ある大学院教育(アジア・ディプロマ)) 「古典力と対話力とを核とする人文学教育」(院プロ)	・「 古典力と対話力とを核とする人文学教育 」(院プロ) 学域横断的な能力を養成する「人文学フュージョンプログラム」と古典力と対話力の涵養・展開の場として「古典セミナー」,「古典サロン」,「コロキウム」,「フォーラム」を活用した共通科目を段階的に実施することで、大学院教育を實質化し、現代の社会的ニーズに応える知識と技能を学生が身に付けることを目指します。具体的には、以下のような人材の養成を目指します。 前期課程では、専門応用能力や、学域横断的な研究交流を行う意思・基礎的な力を持った、ジャーナリストや専修免許教員などです。 後期課程では、研究者として自立して研究活動を行うという高度の研究能力を身に付けさせる観点から、次のような人材を養成していきます。すなわち、1)新しい研究対象や方法を開拓しようとする研究者、2)一般教養教育などの場で多様な学生に対応できる大学教員、3)地域の多様な文化的ニーズに応える高度な学芸員などの専門家といった、異なる専門を理解し融合する能力を持つ人文学研究者・高度な専門職業人です。
国際文化学研究科	H19.4 総合人間科学研究科を改組し、国際文化学研究科を設置	現代世界における異文化間の相互作用やグローバル化による文化の変容とコミュニケーションに關わる諸問題を学際的に究明することを教育研究上の目的としており、これらを問題に深い異文化理解能力と自在なコミュニケーション能力をもつて対応し得る、豊かな学識と創造的な研究能力を備えた人材を養成することを目的としています。		
文化相關専攻		異文化間の相互作用に關わる諸問題を文化の相対性を捉え、として究明することを教育研究上の目的とし、前期課程においては、個別地域文化と異文化間の相互作用について、幅広い専門的知識と基礎的な研究能力を持つ人材を養成することを目的とし、後期課程においては、個別地域文化と異文化間の相互作用について、高度な専門的知識と自立した研究能力を持つ人材を養成することを目的としています。	（前期課程） キャリアアップ型プログラム 研究者養成型プログラム （後期課程） コースワーク型教育プログラム プロジェクト型教育プログラム	（前期課程） ・ キャリアアップ型プログラム 前期課程修了後、就職を希望する学生に対応した教育プログラムです。幅広い専門的知識と実践的な応用能力の修得によって、キャリアの高度化を目指します。特殊講義を中心とした所定単位の修得と、キャリアデザインに即した修了研究レポートの提出によって、修士号が取得できます。 ・ 研究者養成型プログラム 前期課程修了後、後期課程入試を経て、後期課程への進学を希望する学生に対応した教育プログラムです。キャリアや高度専門家の養成を目指して、体系的なカリキュラムが提供されています。高度専門演習を中心とした所定単位の修得と修士論文(または修士フオリオ)の提出が修了要件になります。 （後期課程） ・ コースワーク型教育プログラム 15の教育研究分野(コース)がそれぞれ集団指導によって博士論文作成プロセスをサポートする教育プログラムです。 ・ プロジェクト型教育プログラム 本研究科が重点的に取り組む研究領域を広く明らかにするとともに、研究科内での研究コミュニティの形成を積極的支援することによって、博士論文作成のための研究教育環境をいっそう充実させることを目的としています。
グローバル文化専攻		グローバル化による文化の変容とグローバル化時代のコミュニケーションに關わる諸問題を究明することを教育研究上の目的とし、前期課程においては、現代の様々な文化を通過するシステムと外国語運用を含む先端のコミュニケーションについて、幅広い専門的知識や基礎的な研究能力を持つ人材を養成し、後期課程においては、現代の様々な文化を通過するシステムと外国語運用を含む先端のコミュニケーションについて、高度な専門的知識や自立した研究能力を持つ人材を養成することを目的としています。		

研究科・専攻名	改組の実施状況	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (大学ホームページより抜粋)	履修課程・履修コース／プログラム等	各コース／プログラムの概要 (各研究科HP抜粋)
人間発達環境学研究科	H19.4	総合人間科学研究所を改組し、人間発達環境学研究科を設置	人間の発達と、それを取り巻く人間環境に関わる、応用的・実践的教育研究活動に主体的に参加し、これを推進する中核的な人材の養成を行うことを目的としています。	
心身発達専攻		人間の生涯発達を理解する上で欠かせない諸問題を教育研究対象とし、前期課程においては、各履修コースに関する高度な専門的知識と基礎的な研究能力を持つ高度専門職業人や市民社会で活躍できる人材の養成を目的とし、後期課程においては、心身発達に関する高度な専門的学識と創造的な研究能力を持つ自立した研究者や、研究能力に加えて豊かな教育開発能力を備えた大学等の教員の養成を目的としています。	(前期課程) 心身発達基礎論コース 臨床心理学コース 健康発達論コース	●心身発達基礎論コース 心理学の専門的知識・技術を持って、心の発達と在り様をトータルに研究するための能力と円滑な人間関係をマネジメントできる実践力を養成します。そのために、心のメカニズム、心の発達と形成、心の障害の理解と支援などにわたる、基本的かつ総合的なカリキュラムを用意しています。学生は、同じ人間発達環境学の臨床心理学コースの科目と併せて履修することにより、心の問題について、基礎的、原理的な理解の上に臨床的、実践的な理解を積み上げ、いっそう専門的な力量を深めることができます。 ●臨床心理学コース 臨床心理士養成を目的とするコースで、心理臨床の専門職に求められる実践力と研究能力を養う、臨床心理士受検資格取得の第1種指定大学院コースです。指定カリキュラムに対応した授業科目と本研究科附属の心理教育相談室や外部実習施設での実習を通して、心の問題を抱える子どもと成人への接近法、心理臨床面接、心理査定について専門的力量を養成します。学生は、同じ人間発達環境学の臨床心理学コースとの連携による研究指導、並びに、同コース院生との交流を通じて、心の問題についてより広い視野から、臨床実践の専門的力量と研究能力を高めることができます。 ●健康発達論コース 現代社会においては、疾病予防と健康の保持増進が重要で、国、地域、職場、学校、各種団体等を対象とした健康の保持増進に関わる専門職従事者は、各々の集団における健康問題の提起、原因の探究、有効策の提案及び集団への健康教育の実施が求められています。本コースでは、上記の課題の他に人間発達論、子ども・家庭支援論、食環境などを学習し、個々の研究課題を深化させることにより、コミュニケーションの専門職にふさわしい能力を持つ人材を養成し、併せて後期課程でより深い研究を行うための能力を形成します。
教育・学習専攻		教育・学習という人間形成に関する社会的・個人的営為を教育研究対象とし、前期課程においては、各履修コースに関する高度な専門的知識と基礎的な研究能力を持つ高度専門職業人や市民社会で活躍できる人材の養成を目的とし、後期課程においては、教育・学習に関する高度な専門的学識と創造的な研究能力を持つ自立した研究者や、研究能力に加えて豊かな教育開発能力を備えた大学等の教員の養成を目的としています。	(前期課程) 教育学論コース 子ども発達論コース 発達支援論コース 発達支援論コース（1年履修コース）	●教育学論コース 初等・中等教育の教員免許を取得し、「学校教育」という社会的制度を「教育学」という視座から考察してきた学生たちを対象に、さらに「教育学」の各研究領域の高度な知識と研究スキルを習得させることにより、批判的洞察力・自己洞察力・自己開発力を備えた、教育現場のリーダーとなる学校教員を養成します。単に高度な専門的知識の机上理解を図るだけでなく、各学生を特定の「教育問題」や「教育事象」の生起する「場」に具体的に介入させ、それらを解説する技能・技法を「演習」を通して習得させます。 ●子ども発達論コース 子ども発達論では、乳幼児期から青年期にかけての子どもを対象に、子どもの心身の発達、言語、音楽、造形表現の発達、数理認識の発達など多様な視座で子どもを捉え、学校・園及び家庭・地域での新たな専門職に就くための発達と子どもの発達と子どもの教育に対する高度な知識と技術を身につけた専門家の養成を行います。 ●発達支援論コース 本研究科附属のヒューマン・コミュニケーション創成研究センター（HCセンター）を拠点として、生涯学習支援、ジェンダー文化学習支援、児童発達支援、継続教育支援などの現場の実践者と協働して実践的研究を行うことにより、実践的能力を持つ支援者を養成し、併せて各々の支援についての理論的考察を深めます。
人間行動専攻		人間行動の身体行動に関する側面と、加齢に伴う発達と環境への適応に関する側面を教育研究対象とし、前期課程においては、各履修コースに関する高度な専門的知識と基礎的な研究能力を持つ高度専門職業人や市民社会で活躍できる人材の養成を目的とし、後期課程においては、人間行動に関する高度な専門的学識と創造的な研究能力を持つ自立した研究者や、研究能力に加えて豊かな教育開発能力を備えた大学等の教員の養成を目的としています。	(前期課程) 身体行動論コース 身体発達論コース 行動発達論コース	●身体行動論コース 身体運動のメカニズムや心身生理的効果及び運動障害予防について、運動生理学、バイオメカニクス、トレーニング・コンディショニング科学、運動心理学の各面から、また運動・スポーツの文化・歴史及び振興施策について、スポーツ文化史、生涯スポーツ論の各面から学び、身体行動に関する知識と実践力及び研究手法を習得します。身体活動及びスポーツ科学分野の研究者養成とともに、スポーツ分野の指導及び政策立案等の高度専門家としての能力も育成します。 ●行動発達論コース 社会科学及び自然科学の両面から現実のさまざまな人間行動を多角的に捉えるために老年学（ジェネントロジー）、運動老年学・社会学・宗教社会学・応用心理学・身体運動科学などの多分野の研究領域を設け、人間行動の年齢に伴う発達と環境への適応に関わる課題を学際的観点からアプローチできる人材を養成します。

研究科・専攻名	改組の実施状況	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (大学ホームページより抜粋)	履修課程・履修コース／プログラム等	各コース／プログラムの概要 (各研究科HP抜粋)
人間表現専攻		人間の感性の発現としての表現活動を教育研究対象とし、前期課程においては、各履修コースに関する高度な専門的知識と基礎的な研究能力を持つ高度専門職業人や市民社会で活躍できる人材の養成を目的とし、後期課程においては、表現文化や芸術表現に関する高度な専門的学識と創造的な研究能力を持つ自立的な研究者や、研究能力に加えて確かな教育開発能力を備えた大学等の教員の養成を目的としています。	表現文化論コース (前期課程) 表現文化論コース コミュニケーションコース	・表現文化論コース 人間の多様な表現活動とそれらに介在する感性について、人文科学的・社会科学的・自然科学的・科学的の観点から研究（表現活動やフィールドワークを含む。）を行います。そして、表現文化の過去・現在・未来に対する深い認識と柔軟で創造的な構想力に加え、その認識や構想を伝へていくための専門的担当や、研究者、学芸員、アート・マネージャー、ステージ・マネージャー、編集者、ジャーナリスト、ライターなど、これからの成熟社会において表現文化の諸領域で活躍が期待される人材を養成します。 ・コミュニケーションコース いまだ分野として明確に成り立っていない諸領域を一元的に扱うことにより、将来的な発展を先導します。真切的には、地域社会において芸術に關する生涯教育のファシリテーターや指導者の養成、あるいはそれと関係した音楽療法やダンス療法などの実践研究、及びコミュニティアートとしての新しい芸術形態の創造開発を目的とした教育研究を行います。
人間環境学専攻		人間の発達を促進し支拂する環境要因の解明と開発を教育研究対象とし、前期課程においては、各履修コースに関する高度な専門的知識と基礎的な研究能力を持つ高度専門職業人や市民社会で活躍できる人材の養成を目的とし、後期課程においては、人間環境学に関する高度な専門的学識と創造的な研究能力を持つ自立的な研究者や、研究能力に加えて確かな教育開発能力を備えた大学等の教員の養成を目的としています。	自然環境論コース (前期課程) 自然環境論コース 数理情報環境論コース 生活環境論コース 社会環境論コース	・自然環境論コース 自然環境の成り立ちや環境と人間の相互作用に関する基礎的研究を行う能力を有し、自然科学的立場から人間環境の具体的諸課題の解決を目指す人材を養成します。そのために、自然環境に關わる物質系、生命系、地球表層から宇宙にいたるまでの幅広い、基礎的な理解を深めるとともに、環境汚染、環境保全などの人間生活と密接に關係する環境問題に關して深く考究します。また、インターンシップ等を通して、先進的研究の現場や社会で必要とされる専門的技術・能力を獲得させ、かつ特別研究や論文作成を通じて研究能力を養います。 ・数理情報環境論コース 情報環境が多様化・高度化する現在、企業ばかりでなく地域・教育機関等さまざまな分野において、情報化を推進し問題解決のできる人材が求められています。情報環境のような知的環境において、さまざまなソフトウェアやIT機器を効果的に利用しながら、対象を適切に定式化し数理的手法を用いて問題の解明にあたることが問題の解決に向けての重要な柱です。本コースではこのような観点から、数理科学に対する高い専門性を身に付け、情報環境の多様化・高度化に対応して情報環境における諸問題を解決のできる人材を養成します。 ・生活環境論コース 快適な生活のあり方として、生活環境形成に關する課題を発見、分析し、解決する能力を持つ人材の育成を目標とします。暮らしに關する政策の立案・運営を担う中央ならびに地方行政セクターの人材、生活創造活動につなげる企画・実践力を備える企業活動セクターのキーパーソン、及び地域の生活と環境の課題に取組むNPO・NGOの人材を養成します。 ・社会環境論コース 現代の社会環境のもとでは、グローバル化・高度情報化・少子高齢化などの進展や自然環境破壊の深刻化等に伴い、急速に変化する社会状況を的確に読み取り、そこで得た知見をもとに、柔軟かつ細やかな姿勢で対応する人材が求められています。本コースでは、こうした動向を踏まえ、より広い観点から社会科学の多様な知見を駆使して現状を読み解く知的能力と、具体的状況に柔軟かつ細やかな姿勢で解決するアクチュアルな行動力とをあわせもつ人材を養成します。

研究科・専攻名	改組の実施状況	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (大学ホームページより抜粋)	履修課程・履修コース／プログラム等	各コース／プログラムの概要 (各研究科HP抜粋)
法学研究科	H16.4 経済関係法専攻、公共関係法専攻及び政治社会科学専攻を改組し、理論法学専攻、政治学専攻及び実務法律専攻を設置			
理論法学専攻		法の基礎的研究とともに、前期課程においては、研究・教育に従事する国内外の次世代の法学研究者の養成、学部段階以上の法学の知識を有し、豊かな問題解決能力を備えた人材の養成、現代社会の法律問題、政策問題に対応しうる応用的・実務的・総合的な解決能力を有する社会人の教育、より専門性の高い分野で活躍できる職業法曹等の養成と継続教育を、後期課程においては、実務法律専攻を修了した者も含め、次世代研究者の研究・教育能力のさらなる深化、前期課程において行った研究を踏まえ、より高度な問題解決能力を有する専門職業人の養成を目的としています。	(前期課程) 研究者コース 社会人コース 専修コース 法曹リカレントコース (後期課程) 研究者コース 高度専門職業人コース	(前期課程) ・ 研究者コース 日本内外の大学等の研究・教育機関において理論法学および政治学の諸分野の研究・教育に従事する、次世代の研究者を養成する。 ・ 社会人コース 現在の社会の急速な変化によって生じている法律問題・政策問題に対応しうる応用的・実務的・総合的な解決能力を養成する。また、法学や政治学の領域における関心を有する社会人学生にリフレッシュ教育を行う。 ・ 専修コース 昨今の国内外の急速な情報化・高度化・流動化に伴い、社会における問題も多様化・複雑化していることを受けて、学部段階より高度の法学や政治学の知識を会得させ、問題解決能力を涵養する。 ・ 法曹リカレントコース(理論法学専攻) 職業法曹を受け入れ、専門的・先進的な法曹継続教育を行う。 (後期課程) ・ 研究者コース 前期課程研究者コースとともに、法学、政治学の一領域を研究する研究者を養成する。 ・ 高度専門職業人コース 前期課程における研究を踏まえ、高度化する社会に生じる法学、政治学的諸問題を解決する能力を有する高度専門職業人を養成する。
政治学専攻		政治学の基礎的・応用的研究とともに、前期課程においては、研究・教育に従事する国内外の次世代の政治学研究者の養成、学部段階以上の政治学の知識を有し、豊かな問題解決能力を備えた人材の養成、現代社会の政治問題、政策問題に対応し得る応用的・実務的・総合的な解決能力を有する社会人の教育を、後期課程においては、次世代研究者の研究・教育能力のさらなる深化、前期課程において行った研究を踏まえ、より高度な問題解決能力を有する専門職業人の養成を目的としています。	(前期課程) 研究者コース 社会人コース 専修コース (後期課程) 研究者コース 高度専門職業人コース	
実務法律専攻 (専門職学位課程)		法の応用的研究とともに、基本的な法領域に関して深い知識と豊かな応用力を有する職業法曹や基本的な法領域に関する知識に加え、ビジネス・ローを中心とした先端的法分野についての知識と能力を有する職業法曹の2種類の法曹を中心としつつ、先端的な研究に裏打ちされた、国際性・専門性に富んだ職業法曹を養成することを目的としています。	既修者コース 未修者コース	
経済学研究科	H20.4 経済システム分析専攻及び総合経済政策専攻を改組し、経済学専攻を設置	経済学に関する人類の知見を継承し、創造的に発展させることを通じて、経済学の進歩及び人類の幸福に資することを目的としています。		
経済学専攻		(前期課程) 広い視野に立って深い学識を授け、経済学における研究能力や、これに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的としています。 (後期課程) 経済学としての自立した研究活動や、その他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力と、その基礎となる豊かな学識を養うことを目的としています。	(前期課程) 本科コース 専修コース 社会人コース 総合研究プログラム スキルアップ・プログラム リカレント教育プログラム 経済・数理教育プログラム	・ スキルアップ・プログラム 高度専門職業人の育成を目的とし、日本経済の景気予測や消費動向の実証分析などの計量経済学のスキルを習得したい方のためのプログラムです。データに基づく理論モデルの応用、計量経済学の処理による実証分析が主要なテーマとなります。 ・ リカレント教育プログラム リカレント教育プログラムは総合的な経済学的分析手法を用いて政策の分析・評価・立案に結びつけていくことを学ぶプログラムです。社会人の方がお持ちの豊富な知識・経験を生かしながら、福祉問題、地域経済、環境問題などの政策課題を学んでいきます。 ・ 経済・数理教育プログラム 高度専門職に必要な総合的知識を有する人材を養成するため、前期課程に置かれたコースで、経済学研究科と理学研究科で授業科目を選定しプログラム化しています。

研究科・専攻名	改組の実施状況	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (大学ホームページより抜粋)	履修課程・履修コース／プログラム等	各コース／プログラムの概要 (各研究科HP抜粋)
経営学研究科		わが国における経営学・商学の中核的教育研究拠点 (Center of Excellence) (以下「00E」という。)として、その各分野における先進的な教育研究を行っています。		
	マネジメント・システム専攻	(前期課程) 経営学・商学全般と、それらに関連する基礎的学問分野の高度な専門知識を持ち、経営学・商学の特定の専攻分野において、新たな科学的知見を生み出す科学的方法論を修得し、本学・研究機関や産業界で当該分野の発展に寄与する人材を養成することを目的としています。		
	会計システム専攻	(後期課程) わが国における経営学・商学の00Eとして研究科で行われている先端的研究を通じて、経営学・商学の特定の専攻分野において深い専門知識に精通し、知創的研究を行う人材を養成し、当該人材が、大学や研究機関等において当該分野の高度な研究・教育に従事し、その発展に主導的役割を果たすとともに、その成果を世界に及ぼし、人類の進歩と発展に寄与することを目的としています。		
	市場科学専攻			
	現代経営学専攻 (専門職学位課程)	神戸大学MBAプログラム (専門職学位課程) は、日本の経営方式やビジネスの慣行の合理性と限界について正確な知識を持ち、それを土台にして、国際的に活躍できるビジネス・エリートを育成するという日本型のMBA教育の確立を目指し、実社会で既に活躍している社会人を受け入れ、教員の高い教育・研究能力を活用して、日本のビジネス社会の中核となる人材を養成することを目的としています。	標準履修コース 短期履修コース	
		自然科学の基礎である理学諸分野を探究することによって自然科学の認識の深化を図り、もって社会の知的基盤の形成に貢献するための教育研究を行っています。		
理学研究科	H19.4 自然科学研究科を改組し、理学研究科を設置			
数学専攻		自然界や社会現象における数理を探究し、広範な数理現象の解明を目指した教育研究を行うとともに、前期課程においては、数学を深く探究するための基礎となる能力や、これに加えて関連する専門的職業を担うための能力を持つ人材を養成することを目的とし、後期課程においては、数学の各専門分野で自立して研究を行う能力とその基礎となる豊かな学識や、これに加えて高度の専門性を要する職業を担うための能力を持つ優れた人材を養成することを目的としています。	(前期課程) 自然・経済・経済プログラム教育コース (H20～)	
物理学専攻		宇宙から分子、原子や素粒子に至る広い範囲にわたって、物質の構造と機能の基本原理解することを目指した教育研究を行うとともに、前期課程においては、物理学を深く探究するための基礎となる能力や、これに加えて関連する専門的職業を担うための能力を持つ人材を養成することを目的とし、後期課程においては、物理学の各専門分野で自立して研究を行う能力とその基礎となる豊かな学識や、これに加えて高度の専門性を要する職業を担うための能力を持つ優れた人材を養成することを目的としています。	(前期課程) 自然・経済・経済プログラム教育コース (H20～)	・ 自然科学系プログラム教育コース 自然科学系の分野に関する幅広い知識及び学際的視点を有する人材を養成するために前期課程に置かれたコースで、理学研究科、工学研究科、システム情報学研究科、農学研究科及び海事科学系研究科の共同によって魅力的なテーマを選定してプログラム化したものです。プログラムコースは学生の希望により履修するもので、理学研究科では計算数理(理・シス専情報)、ゲノム機能科学(理・農連携)、海洋環境科学(理・海事連携)の3つのコースが設定されています。
化学専攻		新しい物質の創製や新しい化学現象と化学原理の探求を目指した教育研究を行うとともに、前期課程においては、化学を深く探究するための基礎となる能力や、これに加えて関連する専門的職業を担うための能力を持つ人材を養成することを目的とし、後期課程においては、化学の各専門分野で自立して研究を行う能力とその基礎となる豊かな学識や、これに加えて高度の専門性を要する職業を担うための能力を持つ優れた人材を養成することを目的としています。	(前期課程) 自然・経済・経済プログラム教育コース (H20～)	・ 数理・経済プログラム教育コース 高度専門職に必要な総合的知識を有する人材を養成するため、前期課程に置かれたコースで、理学研究科と経済学研究科で授業科目を選定しプログラム化しています。
生物学専攻		すべての生物に共通する生命の仕組みと生物界の多様性の成り立ちの解明を目指した教育研究を行うとともに、前期課程においては、生物学を深く探究するための基礎となる能力や、これに加えて関連する専門的職業を担うための能力を持つ人材を養成することを目的とし、後期課程においては、生物学の各専門分野で自立して研究を行う能力とその基礎となる豊かな学識や、これに加えて高度の専門性を要する職業を担うための能力を持つ優れた人材を養成することを目的としています。	(前期課程) 自然・経済・経済プログラム教育コース (H20～)	
地球惑星科学専攻		地球・太陽系・宇宙に係る構造・起源・進化と、そこで生起する諸現象の解明を目指した教育研究を行うとともに、前期課程においては、地球惑星科学を深く探究するための基礎となる能力や、これに加えて関連する専門的職業を担うためには、地球惑星科学の各専門分野で自立して研究を行う能力とその基礎となる豊かな学識や、これに加えて高度の専門性を要する職業を担うための能力を持つ優れた人材を養成することを目的としています。	(前期課程) 自然・経済・経済プログラム教育コース (H20～)	

研究科・専攻名	改組の実施状況	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (大学ホームページより抜粋)	履修課程・履修コース／プログラム等	各コース／プログラムの概要 (各研究科HP抜粋)
医学研究科	H20.4	医学系研究科から医学研究科へ名称変更		
パ「イザ」カ「イザ」入専攻 (修士課程)		バイオメディカルサイエンス及び医学の先端的・学際的研究を推進するとともに、同分野における優れた研究者、教育者及び関連する産業分野において高度の専門的な学識をもって活躍できる人材の養成を目的としています。	本科コース がんプロフェッショナル養成コース がん専門薬剤師養成コース 医学物理士養成コース	がんプロフェッショナル養成プラン(H20～) ・ がん専門薬剤師養成コース 本コースでは、がん治療におけるニーズに対応して、がん専門薬剤師として社会に貢献できる専門家を養成します。バイオメディカルサイエンス専攻(修士課程)において学位を取得するとともに、放射線腫瘍学・臨床腫瘍学に関する共通特論の履修や実習・演習、研究指導を受けることで、最新の知識と技術を学ぶことができます。また、大学病院や連携病院等での臨床実習や職種横断的演習を通して、高度な実践能力とチーム医療を習得する研修ができます。 ・ 医学物理士養成コース(H20～) がん治療におけるニーズに対応して、医学物理士として社会に貢献できる専門家を養成します。バイオメディカルサイエンス専攻(修士課程)において学位を取得するとともに、放射線腫瘍学・臨床腫瘍学に関する共通特論の履修や実習・演習、研究指導を受けることで、最新の知識と技術を学ぶことができます。また、大学病院や連携病院等での臨床実習や職種横断的演習を通して、高度な実践能力とチーム医療を習得する研修ができます。
				・ 基礎臨床融合医学教育コース(H18～H20) 生命現象の基礎的解明、疾患病態の解明や治療法の基礎的開発などを旨とした実験的理論的研究を行うための教育コースです。 ・ 高度臨床専門教育コース(H18～H20) 患者、患者集団を対象とした観察研究、介入試験、高度医療・先端医療の開発を旨とした実験的理論的研究及び臨床研究を行うための教育コースです。臨床実習の一部を単位化し、各教育研究分野診療科毎に、後期研修や専門医資格取得も一部包括した形で、研究内容に最適な教育科目を設けました。 ・ 研究者育成課程(H21～) 生命現象の基礎的解明、疾患病態の解明や治療法の基礎的開発などを旨とした実験的理論的研究を行うための教育課程です。 ・ 医療人養成課程(H21～) 患者、患者集団を対象とした観察研究、介入試験、高度医療・先端医療の開発を旨とした実験的理論的研究及び臨床研究を行うための教育課程です。 ・医学医療国際交流特別コース 外国人留学生を対象としたコース(入学時期:10月、修業年限:3年6月) ・ 履生物学リサーチリーダー養成コース 部局・専攻横断型の履生物学教育体制を構築し、構造生物学から高次機能の生物学までを包含する異分野融合型の専門教育を行い、部局・専攻の枠を越えた学生の移動と交流を促進します。また、「履生物学特論」を受講し、履生物学リサーチリーダーに必要な技能と知識を養成するための能力を培います。 ・ 次世代シグナル伝達医学リサーチリーダー養成コース 次世代シグナル伝達医学リサーチリーダー養成コースは、専攻・講座・分野横断型のclinician-scientist・医学研究者リーダーを育成するコースです。基礎・臨床医学の実質的な融合を基にしたた分野横断的・統合的なアプローチにより、がん、代謝疾患、感染症、神経・免疫系を対象とし、それらの疾患が互いに関わりあう移行メカニズムの解明、並びに画期的な診断・治療・予防法について学びます。 ・ 生命医療リサーチリーダー養成コース 医学分野での基礎研究を担う人材底力を養成すべき問題となっている状況で、幅広い知識・基礎に根ざした創造性と自らリーダーとなって生命科学・医学の先端研究を創成する能力を持った若手研究者の育成を旨とした教育プログラムです。 ・ 拠点融合型プロフェッショナル臨床医教育プログラム 臨床系の医学系大学院コースとして、神戸大学関連病院専門医認定拠点、兵庫県内の高度先進医療拠点、神戸大学の海外新興・再興感染症拠点など、地域特性を有機的に融合させたコースで構成されています。 ① 専門医取得コース(必修) ② 高度臨床技能修得コース(選択必修) ③ 国際臨床技能修得コース(選択必修) 上記の拠点機関に学生を派遣するとともに、学内での指導に加え、拠点機関において神戸大学や島根大学や非常勤講師等の指導を受ける複核指導体制を組んでいます。このプログラムにより、地域・拠点機関との有機的な融合により、社会のニーズに対応した人材の養成、国際的な場でリーダーシップを発揮できる世界水準の人材養成、先進の臨床技能を修得したリサーチーマイメントを持つ、高度なプロフェッショナル臨床医の養成が期待されます。
医学専攻 (博士課程)		医学・生命科学領域における高度で先端的・学際的研究を推進するとともに、将来、医学・生命科学を担う優れた医学研究者並びにリサーチーマイメント及び高度な臨床技能を兼ね備えた臨床医(高度職業人)の養成を目的としています。	基礎臨床融合医学教育コース (H18～H20) 高度臨床専門教育コース (H18～H20) 研究者育成課程 (H21～) 医療人養成課程 (H21～) 医学医療国際交流特別コース 履生物学リサーチリーダー養成コース 次世代シグナル伝達医学リサーチリーダー養成コース 生命医療リサーチリーダー養成コース 拠点融合型プロフェッショナル臨床医教育プログラム がんプロフェッショナル養成コース がん薬物療法専門医養成コース 放射線腫瘍専門医養成コース	がんプロフェッショナル養成プラン(H20～) ・ がん薬物療法専門医養成コース 臨床腫瘍学に関する共通特論の履修や実習・演習を受け、研究課題に取組むことで、最新の知識と臨床腫瘍学に関する共通特論の履修や実習・演習を受け、研究課題に取組むことで、最新の知識と技術を学ぶことができます。また、大学病院および連携病院における十分な症例の実習と職種横断的演習を通して、高度な実践能力とチーム医療を習得する研修ができます。本コースは、がん薬物療法専門医ががん治療認定医取得のプロセスに準じたカリキュラムを組んでいます。 ・ 放射線腫瘍専門医養成コース 放射線腫瘍学の基礎となる放射線腫瘍医学、放射線生物学、医学物理学を系統的に学習し、近年発展が著しい高精度・放射線治療の理論と実感を学ぶことを主たる目標とします。本コースは、日本医学放射線学会・放射線治療専門医、日本放射線腫瘍学会・認定医資格取得のプロセスに準じたカリキュラムを組んでいます。

研究科・専攻名	改組の実施状況	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (大学ホームページより抜粋)	履修課程・履修コース／プログラム等	各コース／プログラムの概要 (各研究科HP抜粋)
保健学研究科	H20.4 保健学研究科の設置	人々の健康を身体的、社会的、倫理的側面から総合的に捉え、総合保健医療の創造及び実践に向けた研究を行っています。		
		（前期課程）看護学、病態解析学、リハビリテーション科学、地域保健学及び国際保健学を高いレベルで推進できる研究者、教育者及び専門職業人の養成を目的としています。 （後期課程）分析力及び問題解決能力をさらに高度化し、臨床実践を通じて新しい保健学を構築できるリサーチマインドを持った指導的研究者、教育者及び高度専門職業人の養成を目的としています。	（前期課程） CNSコース	・CNSコース 家族看護分野における卓越した看護実践能力を有する家族看護専門看護師の養成コースである。講義・演習・実習をとおして、専門看護師として必要な高度な実践能力、教育的能力、コンサルテーション能力、他職種との連携、調整能力、研究能力、倫理的判断能力を習得し、高度な家族ケアを提供できるスペシャリストを育成する。
工学研究科	H19.4 自然科学研究科を改組し、工学研究科を設置	各専攻分野の幅広い知識と学際的視点を有する人材、特に複眼的視野を有する創造性豊かな高度専門職業人や、創造性及び国際性を有する研究者・高等教育機関の教員等を養成するため、専門性、学際性及び実践性を重視した教育研究を行っています。		
		建築学は、人間生活の基礎である住宅や建築施設を創造する最も普遍的な学の一つであることから、前期課程においては、「計画」・「構造」・「環境」という建築の基礎的学問領域のより高度な知識を習得し、これらを総合して現実的課題に対する具体的な解答を導き出す「空間デザイン」の能力を備えた人材の養成を目的とし、後期課程においては、後期課程に於いては、先進的分野に特化した教育研究を行うことにより、国際社会に寄与できる創造性豊かな高度専門知識を備えた人材の養成を目的としています。	（前期課程） 自然科学系プログラム教育コース 医工連携コース（中核人材育成） マルチメジャーコース （後期課程） マルチメジャーコース	
市民工学専攻		市民工学は、土木工学を基盤とした公共利用のための社会基盤施設の建設と保全を通じて、安心・安全で環境に調和した市民社会を創造することを目指す工学領域であることから、前期課程においては、21世紀の市民社会が必要とするパブリックサービスの担い手となるための幅広い分野における専門知識と応用力を習得した人材の養成を目的とし、後期課程においては、先進的分野に特化した教育研究を行うことにより、国際社会に寄与できる創造性豊かな高度専門知識を備えた人材の養成を目的としています。	（前期課程） 自然科学系プログラム教育コース 医工連携コース（中核人材育成） マルチメジャーコース （後期課程） マルチメジャーコース	
		高度情報化社会に要求される新しいナノ材料、デバイス、ハードウェア、ソフトウェア、ウェアラブルコンピューティング技術、システム技術の基礎理論や新しい展開の教育研究を、機能的に融合した電子物理理論と電子情報調度において行うことにより、前期課程においては、高度な専門基礎学力と基礎的研究能力を兼ね備えた人材の養成を目的とし、後期課程においては、より高度な専門知識に基づいて新しい技術の展開に寄与できる国際性豊かな人材の養成を目的としています。	（前期課程） 自然科学系プログラム教育コース 医工連携コース（中核人材育成） マルチメジャーコース （後期課程） マルチメジャーコース	・自然科学系プログラム教育コース （前期課程） 工学研究科は、他の自然科学系4研究科（理学研究科、システム情報科学研究科、農学研究科、海事科学研究科）と連携したプログラムコース認定制度を設けています。プログラムコースは学生の希望により履修するもので、工学研究科では計算ロボティクス（エ・システム情報連携）、バイオリアリナリー（エ・農連携）、減災戦略（工・海事連携）の3つのコースが設定されています。工学研究科においては、このプログラムコースの設定により、高度専門職に必要な総合的知識の養成に対応しています。
機械工学専攻		前期課程においては、将来の科学技術と基礎産業を先導する機械工学を、熱流体工学、材料物理工学、設計生産工学の3分野を柱に恒常的に創造するための研究を行い、自然科学・情報科学・社会科学等の基礎的な学問分野を修め、優れた専門知識を備えた技術者と研究者の養成を目的とし、後期課程においては、人類社会の持続的な発展を実現するために必要な先進的かつ卓越した学術研究を推進することにより、国際的な視野と見識、独創的な課題探求能力を有する指導的人材の養成を目的としています。	（前期課程） 自然科学系プログラム教育コース 医工連携コース（中核人材育成） マルチメジャーコース （後期課程） マルチメジャーコース	・医工連携コース 企業の中核的人材に対して、医工学関連のものづくり技術について最先端教育を行い、単に技術的開発・製造を可能にするだけでなく、製品企画から売れるものづくりに至るまでに必要な能力を涵養する教育を行うコースです。
		様々な分子や材料について、機能発現の機構解明と、それに基づく新規な物質創製から、化学・バイオ生産技術、分離・精製技術の高度化や全体的な生産プロセスの解析にわたる広範囲な内容を統合した教育研究を行うことにより、前期課程においては、ハランズの取れた化学技術者の養成を目的とし、後期課程においては、化学に関する高度な専門知識や優れた応用力と創造力を持ち、高度化・多様化する社会ニーズに対応して将来の化学工業を背負って立つ研究者・技術者の養成を目的としています。	（前期課程） 自然科学系プログラム教育コース 医工連携コース（中核人材育成） マルチメジャーコース （後期課程） マルチメジャーコース	・マルチメジャーコース 複眼的視野を持った創造性豊かな工学分野の高度専門職業人を育成するため、専攻横断的なサブコースを設定し、学生の希望により主専攻の教育に加えて複数の副専攻の教育を受けた人材を養成します。
応用化学専攻				
情報知能学専攻		情報知能学専攻は、情報基礎、情報システム、システムデザインの大調度から構成されており、次世代情報と知的システムの実現のための先端教育を行うことにより、前期課程においては、情報技術とシステム技術の領域、ハードとソフトの世界を統合的に理解する人材の養成を目的とし、後期課程においては、新世代知識システム等の高度に融合する分野において新たな問題や新分野を創出する能力を持つ、創造性豊かな思考と研究開発能力を持った技術者や研究者の養成を目的としています。	（前期課程） 自然科学系プログラム教育コース 医工連携コース（中核人材育成） マルチメジャーコース （後期課程） マルチメジャーコース	

研究科・専攻名	改組の実施状況	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (大学ホームページより抜粋)	履修課程・履修コース/プログラム等	各コース/プログラムの概要 (各研究科HP抜粋)
農学研究科	H19.4 自然科学研究科を改組し、農学研究科を設置	農工工学と農業経済学の融合による学際的な視点と方法論に基づき、自然・人工環境、作物・食料、人間・地域国際社会と生産技術を含む食料共生システム構築に係る教育研究を行うとともに、前期課程においては、農業生産基盤から食料の生産・加工・流通・消費に至る様々な問題に取り組める研究能力と高度な専門性を要する職業等に必要能力を持つ人材の養成を目的とし、後期課程においては、我が国のみならず、アジアや世界の広範な視点から、持続的かつ効率的な食料生産と供給を可能にするシステム構築と発展に貢献する上で必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識と技術を備えた優れた人材を養成することを目的としています。	(前期課程) 自然科学系プログラム教育コース	
食料共生システム学専攻		有用な動物、植物、微生物とそれらの相互作用に係る諸問題を、遺伝子から生態系レベル及び基礎から応用までを統合した資源生命科学として捉えた教育研究を行うとともに、前期課程においては、生物資源の探索・生産・利用・管理技術の開発に向けて研究能力又は高度な専門性を要する職業等に必要能力を持つ人材の養成を目的とし、後期課程においては、生物資源に関して革新的な学術研究と科学技術開発を推進することにより、高度な専門的・総合的な知識や思考力を持ち、食料生産から先端バイオ領域まで幅広い分野を担う上で必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識と技術を備えた優れた人材を養成することを目的としています。	(前期課程) 自然科学系プログラム教育コース	・ 自然科学系プログラム教育コース 農学研究科は、他の自然科学系4研究科(理学研究科、工学研究科、システム情報学研究科、海事科学研究科)と連携したプログラムコース認定制度を設けています。プログラムコースは学生の希望により履修するもので、農学研究科ではゲノム機能科学(農・理連携)、バイオリアイナリー(農・理連携)、国際食料流通(農・海事連携)の3つのコースが設定されています。このプログラムコースの設定により、高度専門職に必要な総合的知識の養成に対応しています。
生命機能科学専攻		生命が生み出す多岐にわたる機能を作物、食品、化学・医薬品等の生産に活用するためのバイオサイエンスたる生命機能科学に係る教育研究を行うとともに、前期課程においては、農と食に関わる多様な機能と現象を分子から生体レベルまで広範囲に解析できる研究能力や、高度な専門性を要する職業等に必要能力を持つ人材の養成を目的とし、後期課程においては、学問の進めべき方向を広い視点から洞察し、生命機能の化学的活用や農環境の保全・創造に関わる先端科学を担いうる優れた高度の研究能力と、その基礎となる豊かな学識と技術を備えた優れた人材を養成することを目的としています。	(前期課程) 自然科学系プログラム教育コース	
海事科学研究科	H19.4 自然科学研究科を改組し、海事科学研究科を設置	海・船を舞台にした地球規模の人間活動に関わる輸送・情報・エネルギー・環境保全等の問題を、自然科学と社会科学を高度に連携させた科学的なアプローチによって解決することを旨とした教育研究を行っています。		
海事科学専攻		(前期課程)創造性豊かな高度専門職業人を養成することを目的としています。 (後期課程)創造性豊かな思考、実践的能力と研究開発能力を培った研究者や、高度専門職業人を養成することを目的としています。	(前期課程) 自然科学系プログラム教育コース 派遣型産学連携教育	・ 自然科学系プログラム教育コース 海事科学研究科は、他の自然科学系4研究科(理学研究科、工学研究科、システム情報学研究科、農学研究科)と連携したプログラムコース認定制度を設けています。プログラムコースは学生の希望により履修するもので、海洋環境科学(海事・理連携)、減災戦略(海事・工連携)、国際食料流通(海事・農連携)の3つのコースが設定されています。このプログラムコースの設定により、高度専門職に必要な総合的知識の養成に対応しています。

研究科・専攻名	改組の実施状況		人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (大学ホームページより抜粋)	履修課程・履修コース/プログラム等	各コース/プログラムの概要 (各研究科HP抜粋)
	H21.4	ヤング・リーダーズ・プログラム (YLP) 地方行政コースの廃止、入学定員の改訂			
国際協力研究科			国際社会の発展に貢献しうる優秀な人材を養成するため、専門性、学際性と実践性を重視した教育研究を行うことを目的としています。		
	国際開発政策専攻		前期課程においては、経済学に基づき開発援助に関わる諸問題を体系的に教育研究し、多様な知識と能力をもって経済開発に携わる人材を養成することを目的とし、後期課程においては、開発経済学を中心として国際協力に関する政策の立案及び理論の彫琢について教育研究し、高度な研究・実務の専門家や教育者を養成することを目的としています。	(前期課程) ダブル・ディグリー・プログラム 開発政策特別コース (後期課程) サントイッチ・プログラム 開発政策特別コース 国際公務員養成プログラム	(前期課程) ・ ダブル・ディグリー・プログラム 連携先の大学との相互認定により、一定の期間中に西大学の学位を取得できる制度です。本研究科のダブルディグリー・プログラムの場合、2年から3年で、本研究科の修士号(国際学、経済学、法学、政治学のいずれか)と海外の大学の修士号を取得できることを目指しています。また、アジア諸国を研究対象としてのアジア各国の大学院を拠点としたフィールド・リサーチも組み込みます。
	国際協力政策専攻		前期課程においては、国際的な枠組みと開発途上国の政治社会の実態を踏まえ、多面的な国際協力に関わる政策と理論を教育研究し、国際社会の発展に貢献する人材を養成することを目的とし、後期課程においては、社会科学の理論と応用的知識を教育研究し、高度な研究・実務の専門家や教育者を養成することを目的としています。	(前期課程) ダブル・ディグリー・プログラム サントイッチ・プログラム 国際公務員養成プログラム	(前期・後期課程) ・ 開発政策特別コース 日本の政府開発援助(ODA)が人づくりに重点を移してきたこともあり、諸外国、とりわけ発展途上国からの留学生を対象にした教育へのニーズが高まりました。また、国際社会でもっとも広く使用されている言語は英語であり、英語を国語としない国の多くで第一外国語として学習されています。こうした状況に鑑みて、国際協力研究科は留学生が英語によって学位を取得できるよう、本コースを設置しました。
地域協力政策専攻			前期課程においては、開発途上国の諸社会の特徴と分野別協力を教育研究し、応用的・実践的な政策学に携わる国際的人材を養成することを目的とし、後期課程においては、開発途上国を文化別・地域別に取り上げ、特定の協力分野に関する地域協力政策を教育研究し、高度な研究・実務の専門家や教育者を養成することを目的としています。	(前期課程) ダブル・ディグリー・プログラム サントイッチ・プログラム 国際公務員養成プログラム	(後期課程) ・ サントイッチ・プログラム このプログラムは、連携先の大学との相互協定により、博士課程の一定の期間中、他大学において論文指導を受けたり、現地調査を実施したりすることができる制度です。
					・ 国際公務員養成プログラム 英語による専門的授業科目を活用して語学力を向上させ、海外実習や長期インターンシップにより実務経験を積ませ、そして今や国際公務員になるための実質的必要条件となっている博士号を取得させて、国際公務員への道を創り出します。

開講科目名	神戸大学史		
担当教員	天野 雅敏ほか	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

テーマ
神戸大学の歩みと日本社会

目標
神戸大学の学術的・社会的役割や特質などを、歴史的観点を軸に様々な角度から総合的に考察することにした。近代日本の発展とともに歩んできた神戸大学百年の歴史を、多角的なテーマから捉え直すことを通して、「知の府」たる大学の歩みと日本社会のかかわりを広く理解する視点および方法を提示し、学生自ら大学の「知」を担う一人として大学で学業を営むことの意味と将来の方向性を見いだす契機とする。

授業の概要と計画

1. 神戸大学の成り立ち (学長(予定))
2. なぜ大学史を学ぶか (百年史編集室助教 湯田拓史)
3. 日本の高等教育制度と神戸大学 (百年史編集室講師 野邑理栄子)
4. 神戸大学精神の源流を探る―校風「真摯・自由・協同」の成り立ちを中心に― (経済学研究科教授 天野雅敏)
5. 神戸大学史における学理と実践 (経済学研究科教授 天野雅敏)
6. 神戸大学の歴代学長 (人文学研究科准教授 河島 真)
7. 海にひらかれた神戸大学 (海事科学研究科教授 石田憲治)
8. 兵庫・神戸の医学・医療と神戸大学 (名誉教授(医) 岡田安弘)
9. 六甲台キャンパス歴史探訪 (百年史編集室)
10. 神戸大学のキャンパス統合 (百年史編集室講師 野邑理栄子)
11. 神戸大学の歴史と地域社会 (百年史編集室助教 湯田拓史)
12. 「学び」を奪われた時代―戦争と学校― (百年史編集室講師 野邑理栄子)
13. 学生生活の移り変わり (人間発達環境学研究科教授 船寄俊雄)
14. 世界の中の神戸大学―国際化への道程― (百年史編集室助教 湯田拓史)

※やむを得ない事情により、講義順序が入れ替わることがあります。

成績評価方法と基準

試験あるいはレポートと受講態度(毎回の出席状況を含む)により総合的に行う。ただし、神戸大学百年記念館1階で開催中の常設展示「神戸大学史展」(平日10時～16時、臨時休館日あり)を見学し感想文を提出することを評価の条件とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

自ら学習する姿勢で臨み、静粛に緊張感をもって受講するよう努めて下さい。

オフィスアワー・連絡先

月曜日(12:30～13:30) 神戸大学百年史編集室(百年記念館1階)

学生へのメッセージ

神戸大学の学生として神戸大学の成り立ちについて理解を深め、この時代にこの場所で皆さんが学業を営むことの意味と方向性を見出してくれることを強く希望します。また同時に、皆さんが背負うことになる神戸大学の将来像についても是非思索をめぐらせてほしいと考えます。

テキスト

当日の配布資料など

参考書・参考資料等

- ・『神戸大学百年史』写真集、神戸大学百年史編集委員会、神戸大学 (神戸大学の歴史が写真を中心に簡潔にまとめられています。)
- ・『神戸大学百年史』通史?T(前身校史)、神戸大学百年史編集委員会、神戸大学 (神戸大学の前身校の歴史です。)
- ・『神戸大学百年史』部局史、神戸大学百年史編集委員会、神戸大学 (神戸大学の各学部・研究科等の歴史です。)
- ・『神戸商船大学七十五周年記念誌』 神戸商船大学七十五周年記念誌編集・刊行委員会、神戸商船大学七十五周年記念会 (海事科学部の前身校の歴史です。)

開講科目名	総合科目Ⅱ		
担当教員	内田 正博	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと目標

テーマ「職業と学びキャリアデザインを考える」(社会で活躍する神戸大卒業生によるリレー講義)

若い皆さんは、自分自身がいかにか大きな可能性にみちているかを殆ど知りませんし、他方、世の中の職業や仕事について具体的に知っている人もごく稀です。しかし、皆さんのもつその測り知れない可能性を生かすためには、将来に拡がる卒業後の多様な進路や仕事を今から考えておくことがとても大切です。

この授業では、様々な職業に就いている神戸大学の卒業生の方々から仕事の現場や遣り甲斐、あるいは仕事への夢や志などを語っていただきます。皆さんはふだんの大学の授業では聞くことのできない先輩たちの話に耳を傾けながら、自分の将来の目標や職業に思いを馳せ、そのために今どんな基本的な能力や知識や教養を身につけるべきかを考えるキッカケにしてもらいたいと願っています。

また、こうした機会をもつことは、今大学で学んでいることの意味を知り、かけがえのない4年間の大学生活を充実させるためにもきわめて有益です。文系・理系の区別や職種を問わず、仕事をするうえでは共通の要素がありますし、どの分野であれ職業について幅広い視野を得ることが必要ですが、そうしたこともこの授業から学びとってほしいと思います。

そして、社会で活躍する諸先輩のお話は、井の中の蛙大海を知るの如く、必ずや皆さんの視野と世界を広げ、自らの可能性に気づきを与え、皆さんの意識と行動に大きな変化をもたらすことでしょう。

授業の概要と計画

- 1) 10月1日「キャリアとは - 授業への導入 (趣旨・予定・試験・諸注意)」
★内田正博 国際文化学部教員 (本科目コーディネーター)
- 2) 8日「日本のキャリアシステムの価値創造のメカニズム」
★平野光俊 経営学部教員
- 3) 15日「節目だけはキャリアデザイン-夢と不安のペア」
★金井壽宏 経営学部教員
- 4) 22日「世界に夢を! - 商社の企画開発業務の現場から」
★今 良平 1961年経営学部卒 元兼松株式会社 新規事業・営業開発室室長、神戸大学キャリアセンター・キャリアアドバイザー
- 5) 29日「モノを運ぶことは、心を運ぶこと - 国際物流と貿易の仕事、そしてNPO活動を通して」
★恵谷 洋 1987年旧神戸商船大学 (現海事科学部) 卒 TNTエクスプレス (株) 取締役営業本部長、海洋エッセイスト、オフィス☆海遊学舎主宰 (筆名「拓海広志」)
- 6) 11月5日「マルチ主婦の実践 - 食と農で起業! NPO法人の設立と運営」
★中塚華奈 1994年農学部卒 (農学研究科修了) NPO法人「食と農の研究所」事務局長、(株)トーホー顧問、有機JAS認証検査員
- 7) 12日「仕事の喜び - プロサッカー選手の経験より」
★西野 努 1993年経営学部卒 (株) オプト・スポーツ・インターナショナル代表取締役社長、元浦和レッズ所属Jリーガー
- 8) 19日「異文化との出会い - 弁護士として日本企業で働く」
★ビーラッパン ビーラスレシュマル 2008年法学研究科修了 パナソニック電工法務部海外法務グループ
- 9) 26日「社会への熱視線 - 報道アナウンサーという仕事」
★住田功一 1983年経営学部卒 NHK大阪放送局編成部チーフアナウンサー
- 10) 12月3日「部品供給に信頼を載せる - 細部にも拘る日本気質!」
★谷 和義 1976年工学部卒 バンドー化学株式会社代表取締役社長
- 11) 10日「世界から、そして世界へ! - 国際都市を生んだ神戸港」
★岡口憲義 1979年法学部卒 神戸市みなと総局長
- 12) 17日「事実を掴む喜び - デジタル時代の新聞記者たち」
★河内鏡太郎 1966年文学部卒、元読売新聞大阪本社専務取締役総務局長・コンプライアンス担当 芦屋市谷崎潤一郎記念館館長、読売新聞大阪本社顧問、
- 13) 24日 (予備日)
- 2010年
- 13) 1月14日「国境を越える仕事への志 - 外資系企業で働く」
★高岡浩三 1983年経営学部卒 ネスレ日本株式会社代表取締役副社長 (2010年1月以降)
- 14) 21日 筆記試験
- 15) 28日 (予備日) 新型インフルエンザ感染等による休講の補講

成績評価方法と基準

学期末の筆記試験。出席重視。毎回、授業中にコミュニケーションシートを書いてもらいます。シートは出席票兼用、代筆厳禁です。シート上部の各項目未記入および自由記述数行のみの場合は欠席扱いになります。この授業では、情報や知識の吸収だけではなく、気づきと成長への意欲を重視します。その他詳細については授業中指示。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

遅刻、途中入場・途中退室、履修者の無断欠席、私語、居眠りは厳禁。授業中携帯の電源は切ること。貴重な時間を割いてこの講義のために準備し遠路来てくださる先輩たちに失礼に当たりますので、以上のマナーを守る自信のない人およびアルバイトや部活等で欠席しがちな人は履修を遠慮してください。毎回、授業の最後に授業の感想、意見、気づき、質問等を必ず書いてもらいますので、授業中は絶えず多くを考えたり感じたりしながら、各講師のお話に耳を傾けてください。この授業は履修者へ全回出席を求めています。

なお、この授業は1年次配当科目ですが、2、3回生や就職活動を終えてこれから社会に出てゆく4(5)回生にもぜひ履修または聴講してもらいたいと願っています。卒業後のキャリア形成や人生設計を考えるうえで大きなヒントが得られるでしょう。また、院生は履修できませんが、聴講を歓迎します。

なお総合科目Ⅱは、学部によっては卒業要件単位に入っていない場合があります。自学部の学生便覧で確認してください。もちろんどの学部生でも単位取得が認定されれば、成績証明書には記載されます。

オフィスアワー・連絡先

問い合わせや連絡は、内田正博まで。相談はあらかじめメールで予約してください。メールアドレスは、utschida□kobe-u.ac.jp (□を@に変えてください。) 研究室は国文キャンパスE棟のE408。ただし、連絡はキャリアセンター(A棟1F東)のほうが取りやすいでしょう。

学生へのメッセージ

自立と社会的関心、そして自己の成長を願う意欲があれば、大丈夫、あなたの未来の歩みは確かなものになるでしょう。

「自立」とは、他人から命じられて初めて学ぶのではなく、自ら課題を見出して自分の意志で学ぶことができ、何をすればよいか教えてもらうまで待つのではなく、自分から何をすべきかを考え、目標をもつことができることも意味します。むしろ将来の精神的自立は、経済的自立が前提となります。そして、そのために今は学ぶ時。とくに演習やゼミで「自ら学ぶ力」を養ってください。

「社会的関心」の反対は、自分のことにしか関心がないこと。自分の利益しか考えない人は視野と世界が狭くなります。社会的関心と社会貢献とサービスの姿勢があれば、何より視野が広がり、自分の能力や知識を何のためにどう行かせばよいか有効に考え、仕事の意味を理解し、人的ネットワークを豊かに形成し、仕事にいつそうやりがいと喜びを覚えるようになります。そのために今はあらゆるものに知的好奇心を抱き、学ぶことを楽しみましよう。基礎的な教養を身につけるとともに、ぜひ新聞を読んでください。

なお、この授業は、1、2回生にとって将来の進路や就職を考えるうえで大いに役に立つことは言うまでもありませんが、それだけではなく、就職活動に取り組む3回生やもうすぐ社会人になる4(5)回生にとってもきわめて貴重な機会となるでしょう。社会の各分野で活躍する先輩たちの声に耳を傾けながら、ぜひ自分の世界を広げる大切なキッカケを掴んでください。

テキスト

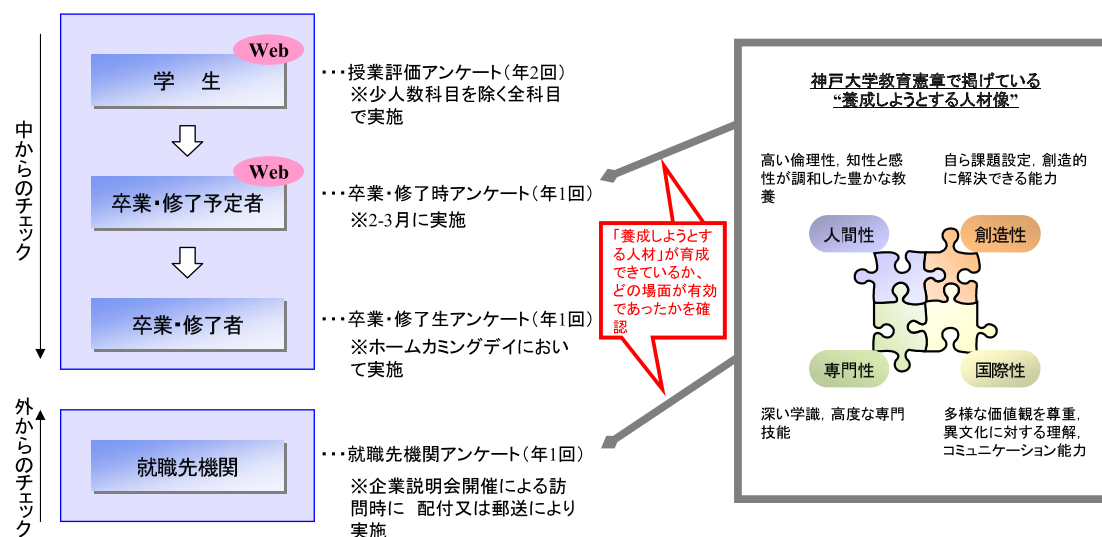
適宜プリント配付(教室に放置しないでください。余分にとったものは元の場所に返却すること。)

参考書・参考資料等

適宜授業中指示。

各種アンケート調査の位置づけ

- 教育成果・効果の改善に向けた多層的アンケートの実施
- ✓ 全アンケートの質問項目を経営評価室にて設計。集計プログラムも作成。
 - ✓ 卒業・修了者へのアンケートと就職先機関へのアンケート項目を対にすることで、“養成しようとする人材像”が達成できているか、客観的に見られるように設計。

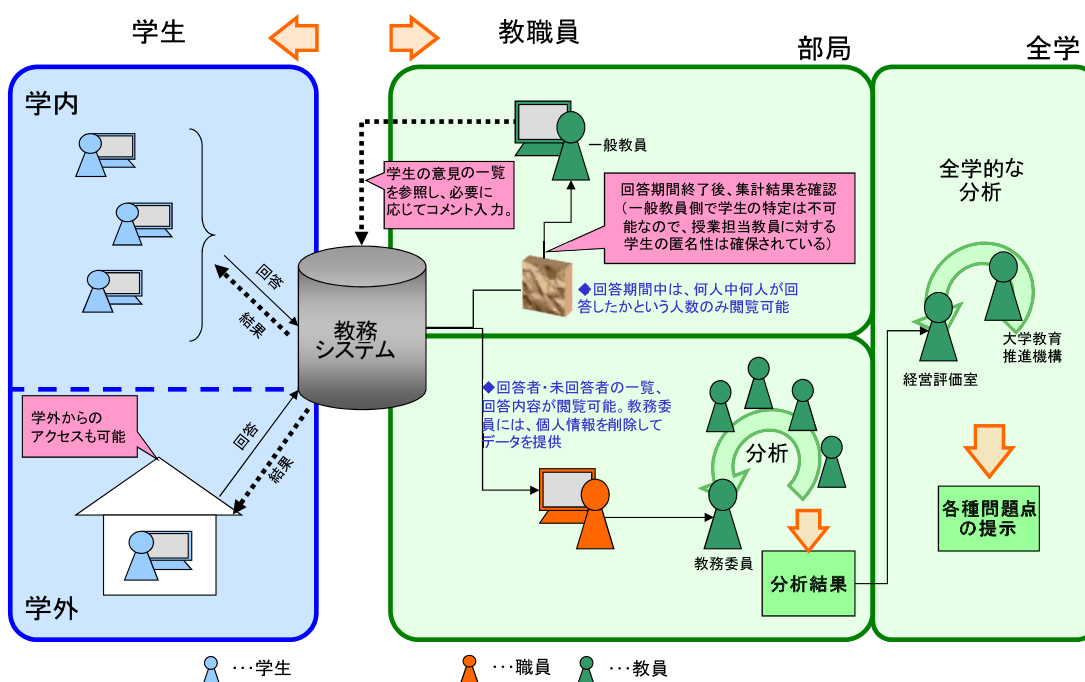


1

Copyright (C) 2008 Kobe University. All Rights Reserved.



Webアンケートの実施イメージ



2

Copyright (C) 2008 Kobe University. All Rights Reserved.



A. 全学共通授業評価アンケート集計結果

I アンケートの構成

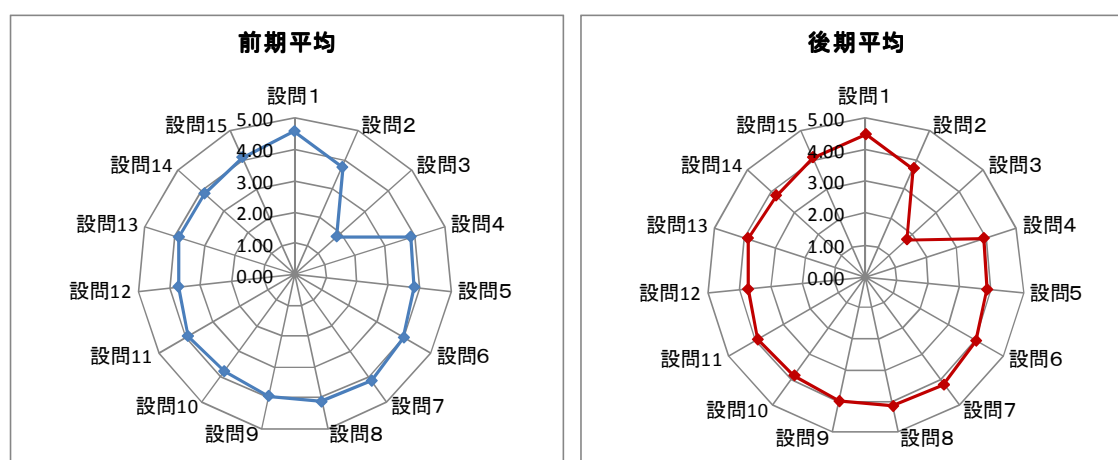
	略称	設 問
Q1	出席	この授業にどれくらい出席しましたか
Q2	受講態度	授業中の受講態度はどうでしたか
Q3	予習復習	この授業に関して、毎週どれくらい自己学習(予習、復習を含む)をしましたか。
Q4	シラバス	シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していましたか。
Q5	到達目標	授業中の説明などで授業の到達目標が明確に示されていましたか。
Q6	成績基準	授業中の説明などで成績評価の方法・基準が明確に示されていましたか。
Q7	教員熱意	担当教員の授業への熱意が感じられましたか。
Q8	教員親切	担当教員の学生に対する接し方は親切であり、質問等に対して適切に答えてくれましたか。
Q9	話し方	担当教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。
Q10	説明媒体	授業中の板書・OHP、指導書・ビデオ等の説明媒体は見やすく、学習促進に有効でしたか。
Q11	授業進度	授業の進み具合はどうでしたか。
Q12	授業理解	授業はよく理解できましたか。
Q13	興味増加	この授業を受けて当該分野への興味・関心が増しましたか。
Q14	教室施設	教室・施設等の学習環境はどうでしたか。
Q15	総合判断	総合的に判断して、この授業を 5 段階で評価してください。

設問 番号	選択肢				
	1	2	3	4	5
Q1	90%以上～100%	70%以上～90%未満	50%以上～70%未満	30%以上～50%未満	30%未満
Q2	非常に積極的	どちらかといえば積極的	どちらともいえない	どちらかといえば積極的でない	全く積極的でない
Q3	180 分以上	120 分以上～180 分未満	60 分以上～120 分未満	30 分以上～60 分未満	0～30 分未満
Q4～Q12	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかというと思わない	そう思わない
Q11	遅すぎる	遅い	丁度よい	速い	速すぎる
Q14	満足であった	どちらかといえば満足であった	どちらともいえない	どちらかといえば満足ではなかった	満足ではなかった
Q15	有益であった	どちらかといえば有益であった	どちらともいえない	どちらかといえば有益ではなかった	有益ではなかった

II 集計結果¹

【 学部 】

図 1：設問項目別の評定値（平均）



¹ 各項目の得点化にあたって、1 から 5 まで数値が大きくなるにつれて評価がよくなるように、1 → 5、2 → 4、4 → 2、5 → 1 というデータ変換（尺度変換）を行っている。

図 2：教員に係る評定値（平均）の推移

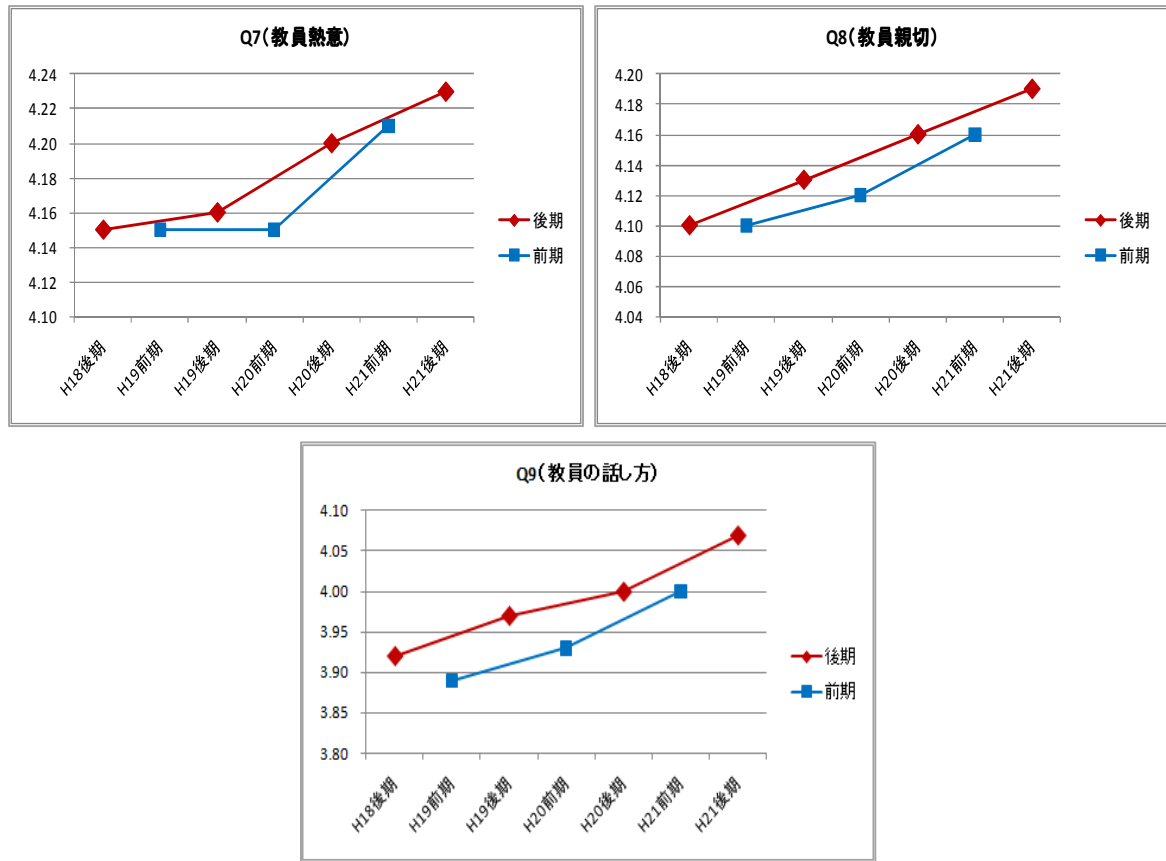
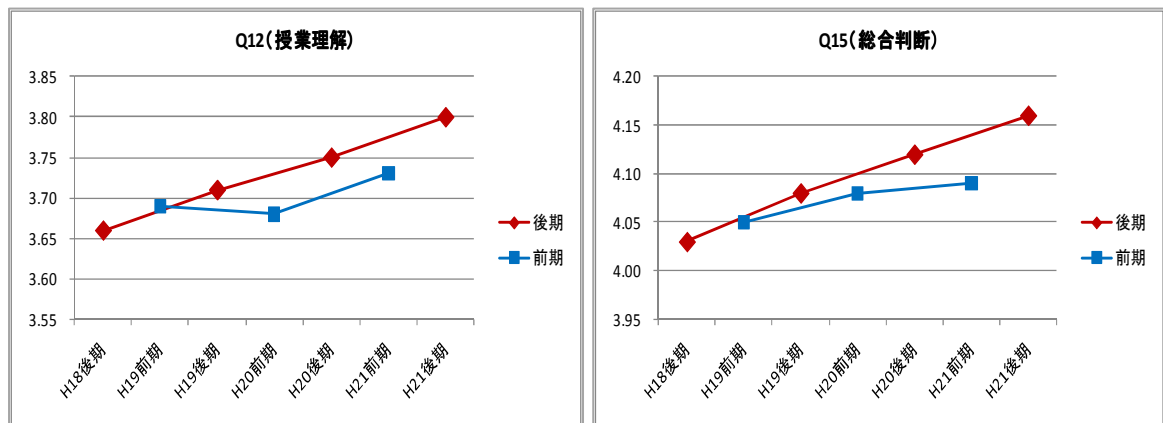


図 3：授業理解及び総合判断に係る評定値（平均）の推移



【 大学院 】

図 4：設問項目別の評定値（平均）

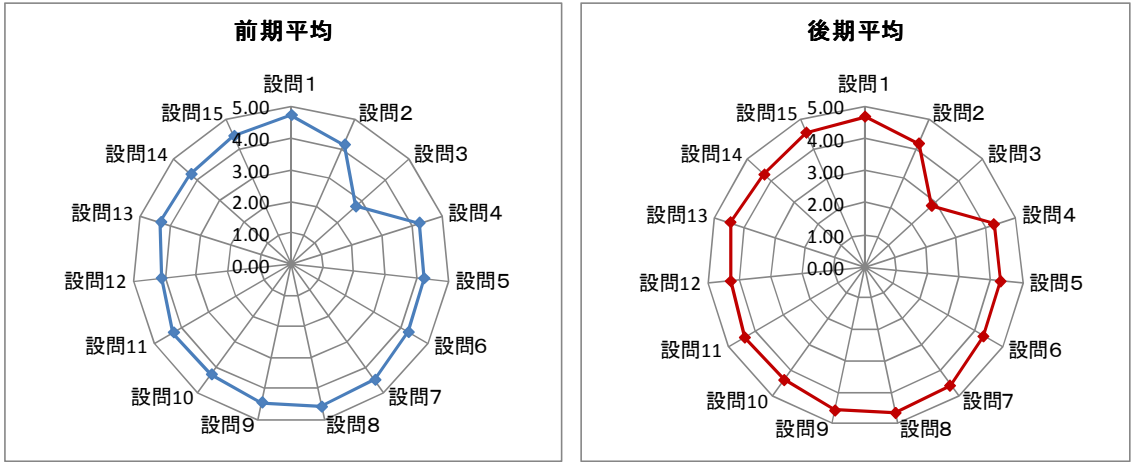
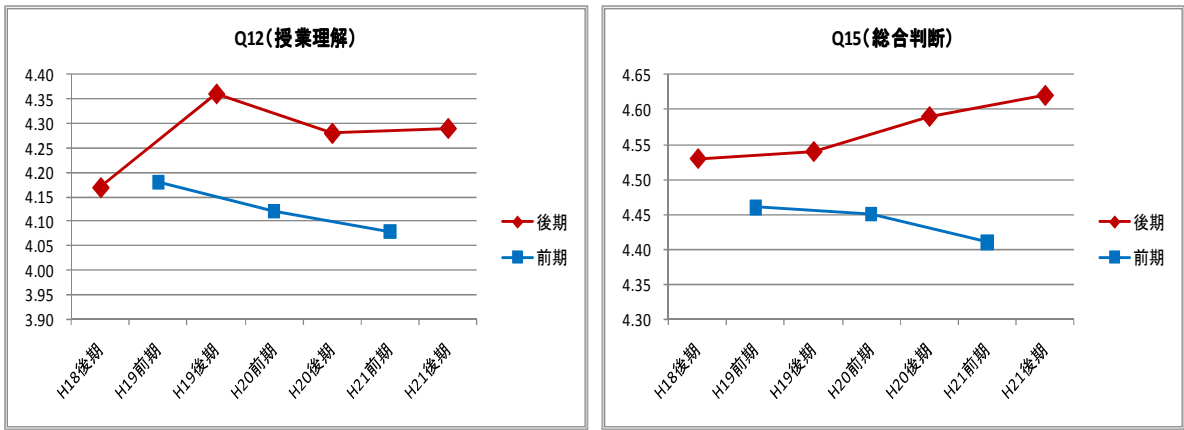


図 5：授業理解及び総合判断に係る評定値（平均）の推移



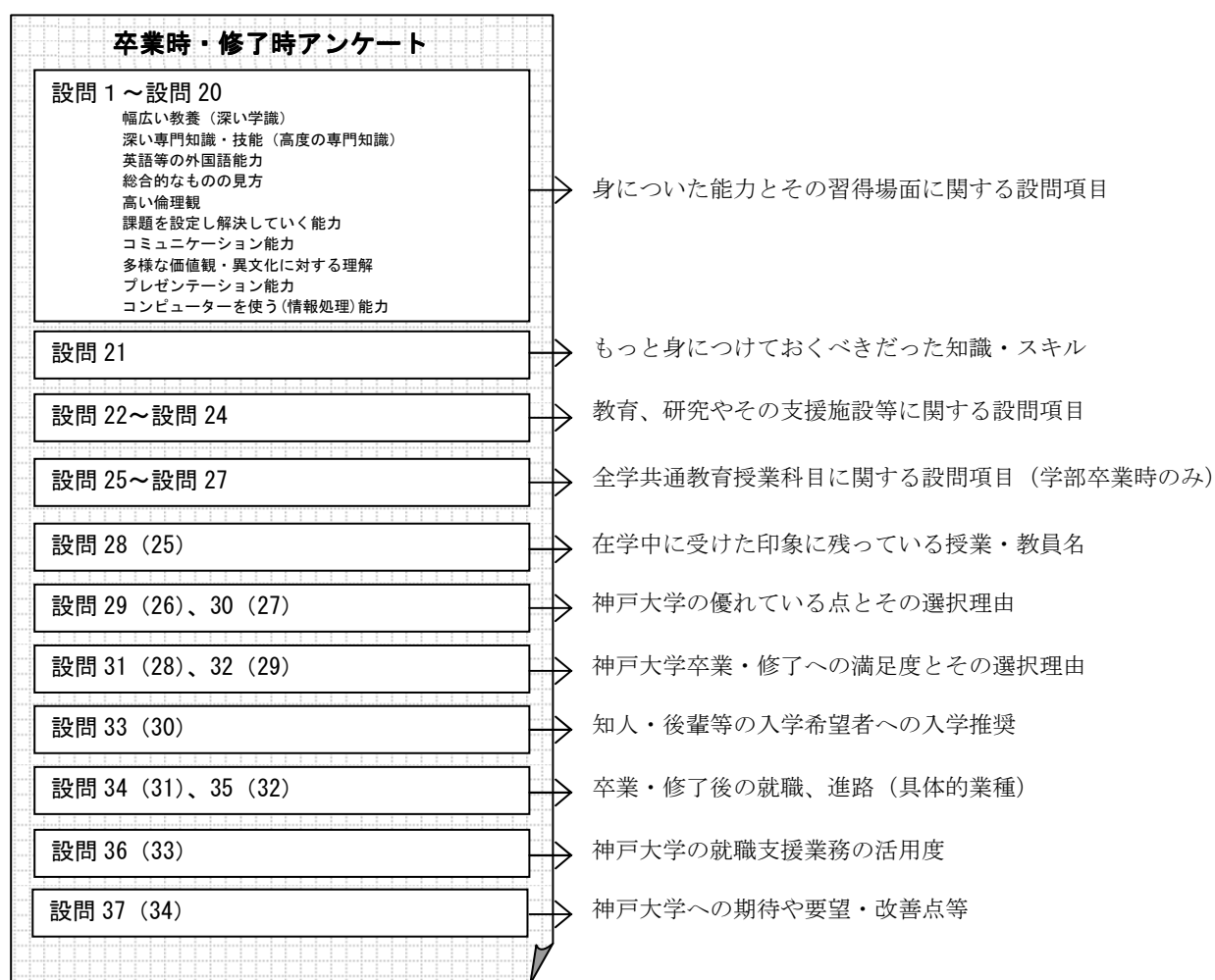
B. 全学共通卒業・修了時アンケート集計結果

【対象期間】 平成18年度～平成21年度

【実施方法】 教務システムの Web アンケート（一部の部局は紙媒体で実施）

I アンケートの構成

アンケートの設問項目は、以下のように学部で選択式32問、自由記述5問の計37問、大学院で選択式29問、自由記述5問の計34問を設定している。



（ ）は大学院修了時アンケートの設問番号

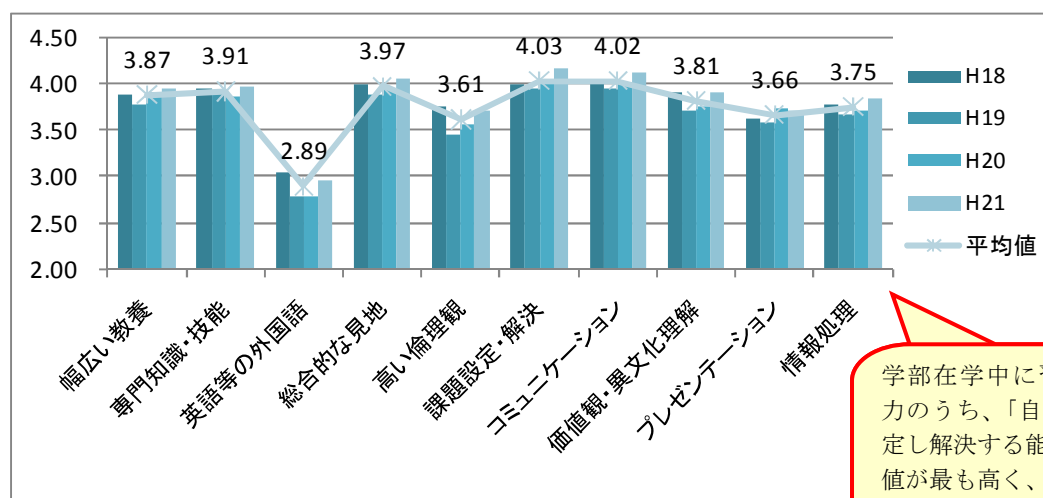
設問 番号	選択肢				
	1	2	3	4	5
1～20 奇数設問	大いに身についた	どちらかといえば身についた	どちらともいえない	どちらかといえば身につかなかった	全く身につかなかった
25～27*	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
31(28)	大いに満足している	どちらかといえば満足している	どちらともいえない	どちらかといえば満足していない	全く満足していない
33(30)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
36(33)*	大いに役に立った	どちらかといえば役に立った	どちらともいえない	どちらかといえば役に立たなかった	全く役に立たなかった

*「経験していないので判断できない」の選択肢を設定。

集計結果¹

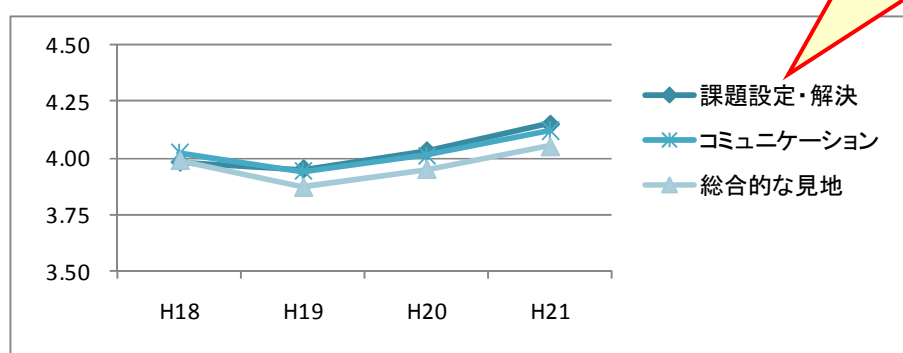
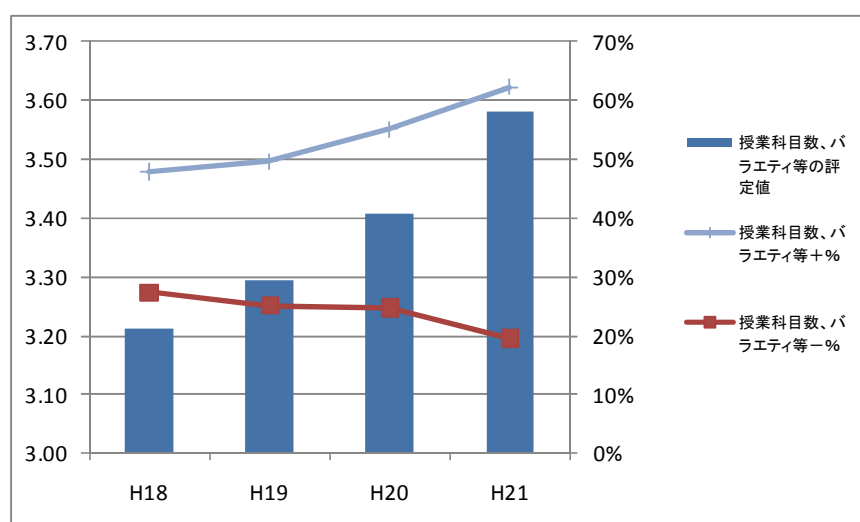
【 学部 】

図 6：学部在学中に習得した能力



学部在学中に習得した能力のうち、「自ら課題を設定し解決する能力」の評価値が最も高く、上昇傾向にあることを確認。

※上記習得能力のうち上位3つの評価値(平均)の推移

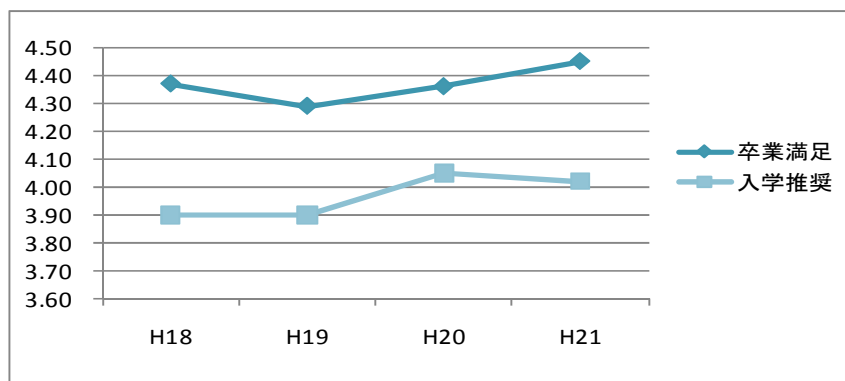
図 7：設問 26²の評価値(平均)の推移及び評価値の内訳

全学共通教育における開講科目の増やクラスサイズの適正化により、学生の「授業科目数及びバラエティ」に係る評価値が上昇していることを確認。さらに、肯定的評価（+％：そう思う、どちらかというと思う）の割合の上昇、否定的評価（-％：どちらかというと思うわない、そう思わない）の割合の減少によって裏付けられている。

¹ 各項目の得点化にあたって、1 から 5 まで数値が大きくなるにつれて評価がよくなるように、1 → 5、2 → 4、4 → 2、5 → 1 というデータ変換（尺度変換）を行っている。

² 神戸大学の全学共通授業科目に関して、全学共通授業科目はバラエティに富み、科目数も十分あり、自分の興味・関心にあった授業が履修できましたか。

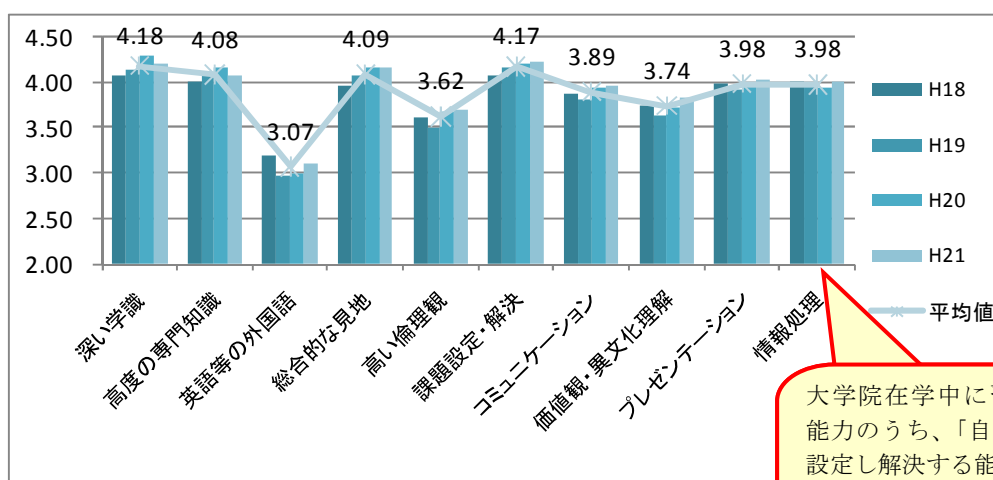
図 8：学部卒業満足及び入学推奨の評定値(平均)の推移



学生の学部卒業への満足度が上昇傾向にあり、かつ知人等への入学推奨度も上昇傾向にあることから、本学の教育内容への満足度が総体的に上昇していることを確認。

【 大学院 】

図 9：大学院在学中に習得した能力



大学院在学中に習得した能力のうち、「自ら課題を設定し解決する能力」の評定値が二番目に高く、上昇傾向にあることを確認。

※上記習得能力のうち上位3つの評定値(平均)の推移

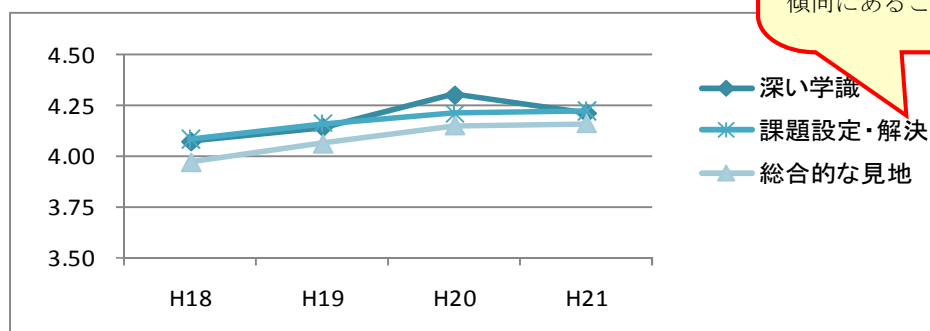
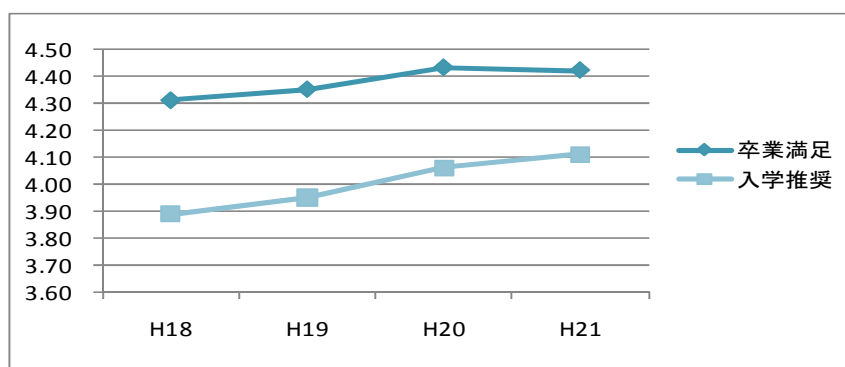


図 10：大学院修了満足及び入学推奨の評定値(平均)の推移



学生の大学院修了への満足度が上昇傾向にあり、かつ知人等への入学推奨度も上昇傾向にあることから、本学の教育内容への満足度が総体的に上昇していることを確認。

平成21年度全学キャリア・就職ガイダンス等の実施報告

主催：キャリアセンター
共催：神戸大学生協

対象等		日 時	場 所	内 容	講師等協力	参加者数	参考(昨年度参加者数)
全学キャリアガイダンス	第1回	平成21年4月4日(土) 13:30～16:00	法学部 263教室	【新入生及びその家族対象】 大学の歩き方～自立に向けて (講演 & OB・OGによるパネルディスカッション)	(株) 毎日コミュニケーションズ	255 (新入生147、 家族108)	357 (新入生198、家族 159)
	第2回	6月17日(水) 17:00～18:30	百年記念館 六甲ホール	【学部2年生対象】 2年生春のキャリアガイダンス (講演 & OB・OGによるパネルディスカッション)		161	113
	第3回	11月30日(月) 17:00～18:30	百年記念館 六甲ホール	【学部2年生対象】 2年生秋のキャリアガイダンス (講演 & 先輩学生によるパネルディスカッション)		55	180
	第4回	12月12日(土) 10:00～12:00	鶴甲第1キャンパス 学生ホール	【学部1・2年生対象】 秋の公務員座談会 (OB・OGによるパネルディスカッション & 交流会)	TAC(株)	68	
	第5回	1月23日(土) 10:00～12:00	百年記念館 六甲ホール	【学部1・2年生対象】 秋の公務員座談会 (OB・OGによるパネルディスカッション & 交流会)	TAC(株)	38	
全学就職ガイダンス(主に学部3年生・修士1年生対象)	第1回	6月3日(水) 13:30～15:30	百年記念館 六甲ホール	就職活動を始めるにあたって【主に文系学生対象】 (講演 & 企業人事採用担当者によるパネルディスカッション)	(株) リクルート	384	309
	第2回	6月3日(水) 17:00～19:00		就職活動を始めるにあたって【主に理系学生対象】 (講演 & 企業人事採用担当者によるパネルディスカッション)		198	158
	第3回	6月10日(水) 12:00～18:30		インターンシップ説明会 (インターンシップ基礎講座、受入企業ブースなど)	みんなの就職(株)	700 (20社)	599 (20社)
	第4回	7月1日(水) 17:00～18:30		講演「公務員を目指す人のために」	郷原豊茂氏(TAC公務員講座)	218	168
	第5回	10月7日(水) 17:00～18:30		講演「劇的な内定術～就職活動を成功させるために」	坂本 直文氏(就職コンサルタント)	468	457
	第6回	10月14日(水) 15:10～16:40		先輩学生の就職活動体験発表会【主に文系学生対象】 (内定学生による就活体験パネルディスカッション)		176	188
	第7回	10月14日(水) 17:10～18:40		先輩学生の就職活動体験発表会【主に理系学生対象】 (内定学生による就活体験パネルディスカッション)		100	154
	第8回	10月20日(火) 12:00～18:30		合同業界説明会 (企業ブース、企業講演など)	(株) ジェイ・ブロード	956 (35社)	880 (34社)
	第9回	10月28日(水) 17:00～18:30		業界・企業研究のしかた	エン・ジャパン(株)	414	319
	第10回	11月4日(水) 13:00～16:30	六甲台本館 (経済・経営学部)	国家公務員Ⅱ種(行政)官庁業務説明会 (近畿管区機関および人事院による国家Ⅰ・Ⅱ種試験説明)	共催：人事院近畿事務局	203 (12機関)	156 (10機関)
	第11回	11月11日(水) 13:00～16:30		合同官庁説明会 (裁判所、国税専門官、労働基準監督官、国立大学法人、京阪神自治体、参議院事務局)		130 (9機関)	179 (11機関)
	第12回	11月18日(水) 15:10～16:40	百年記念館 六甲ホール	エントリーシートの書き方【主に文系学生対象】	(株) 毎日コミュニケーションズ	307	234
	第13回	11月18日(水) 17:10～18:40		エントリーシートの書き方【主に理系学生対象】		227	176
	第14回	11月20日(金) 12:15～18:30	鶴甲第1キャンパス 第1・2体育館	合同業界・企業説明会	神戸大生協運営	1,161 (76社)	
	第15回	12月2日(水) 17:00～18:30	百年記念館 六甲ホール	面接の受け方	田川久美氏(毎日コミュニケーションズ)	449	258
	第16回 第18回	12月 8日(火) 12月 9日(水) 12月10日(木) 各日 12:00～18:30		合同企業説明会 (企業ブース、企業講演、社会人マナー講座など)	(株) ディスコ	延べ1,930 (679+640+611) (84社)	延べ1,833 (664+621+548) (117社)
	第19回 第24回	2月16日(火) 2月17日(水) 2月18日(木) 2月19日(金) 2月22日(月) 2月23日(火) 各日 9:45～17:00	鶴甲第1キャンパス B棟・F棟教室	民間企業個別説明会 人事担当者、OB・OG等による説明(6日間で200社)		延べ1,917 (383+331+339 +246+305+313) (200社)	延べ2,087 (378+406+459 +254+377+213) (179社)
外国人留学生対象企業説明会		6月24日(水) 14:30～19:00	百年記念館 六甲ホール	グローバルキャリアセミナー (主に外国人留学生対象企業説明会)	主催：留学生センター 共催：キャリアセンター他	254 (留学生216、日本人学生38)	250 (留学生219、日本人学生31)
博士、ポスドクガイダンス		8月31日(月) 10:00～、14:00～、 17:00～各2時間、計3 回開催	百年記念館 A会議室	博士、ポスドクのためのキャリアガイダンス	(株) D・F・S	69	
医学研究科バイオメディカルサイエンス専攻学生対象就職ガイダンス		9月2日(水) 14:30～18:00	医学部 共同会議室	バイオメディカルサイエンス専攻内定2年生(4名)の就活体験パネルディスカッション、講演「就職活動を始めるにあたって」、キャリアアドバイザー3名に個別相談	主催：BMS専攻教務学生委員会 共催：キャリアセンター 協力：(株)リクルート	BMS1年生24名 中17名参加	
理系学生対象企業説明会		11月14日(土) 10:30～18:00	百年記念館 六甲ホール	物理系人材のための合同企業説明会	主催：(社)日本物理学会キャリア支援センター、人間発達環境学研究科 共催：キャリアセンター	103 (9社)	
						平成21年度 延べ参加者数 10,958	平成20年度 延べ参加者数 9,055

就職活動を応援します!!

神戸大学生・院生のための
就職活動サポート情報

Future!

増刊号 地元企業特集

地元を目を向けて「知らないことを知る」

就職情報サイト「リクナビ」副編集長から、神戸大学生へのメッセージ

今皆さんは、今後の自分の将来を考えるにあたり、どのような一歩を踏み出そうとしていますか？ 過去の自分の経験・体験を振り返ることによる自己理解を深め、自分なりに企業や仕事を選ぶ軸を自分の言葉で語れるようになってきていますか？

今日、日本のみならず世界的にも大企業や有名企業ですらいつ何が起るかかわからない時代となってきました。企業規模やブランドで見てしまったり、「この商品よく買ったから」と消費者の目線のみだったり、又は家族が喜んでくれるから、といった理由で企業や仕事を選ぶとはしてないでしょうか？ 何の為に働くのか、どのような働き方をしたいのか、誰の為にどのような仕事をしたいのか、それはなぜなのか…すぐには答えが出ない難しい質問かもしれませんが、自分なりに考え、自己理解を深めながらしっかりと軸を創っていったほしいと思います。

就職活動を通して、皆さんは数ある企業の中からたった1つの会社を選ぶことになります。

今、不況だ雇用崩壊だと世間では言われていますが、実は今「リクナビ2010」に掲載されている社数だけでも約8800社あります(2009年9月10日時点)。さらに日本で新卒採用を行っている企業はなんと3万社あるとも言われています。

10社を見比べてそこから1社を選ぶのと、100社を見比べてそこから1社を選ぶのでは、企業や仕事の理解度に大きな差が出てきます。もちろん、自分の中での納得感も大きく異なってくるでしょう。興味のある企業を見つけた場合、もしその企業が従業員1000人以上だったら、同時に、同じ業界で従業員100人の企業も見つけて調べてみて下さい。興味のある企業の本社が東京だったら、地元でも同じ業界の会社があるかどうか調べてみて下さい。そのようにして、**意識的に「知らなかったことを知っていく」ことをぜひとも続けて頂きたい**と思います。

今回、11月の「JOB Guidance for Future!」では地元企業特集として、神戸大学の卒業生が働く兵庫県下の企業が紹介されています。皆さん、将来「地元で働く」という選択肢は現在ありますか？



「リクナビ2010」に掲載されている企業の中で、勤務地が兵庫県の企業は約1700社。その中で、本社所在地が兵庫県の企業だけでも約200社あります。(2009年9月10日時点)。「リクナビ2010」に掲載されている企業情報の中に、実際に地元企業へ就職した方の志望理由も掲載しているのですがそれらは大きく2つに分けられます。

まず1つ目は「**地元神戸にいながら世界を相手に働くことができる**」という理由です。例えば、兵庫県に本社と工場を持つ特殊金属線の製造・販売の会社へ就職した方は、「世界に通用する製品を作り、多くの製品を世界中に提供しており、地元に貢献しながら大きな仕事ができそうだし入社を志望したのです。」や、「営業として国内はもちろん、海外のお客様を訪問することもあります。」といったコメントがありました。

2つ目は「**大きな仕事を若いうちから任せてもらえる**」という理由です。例えば、神戸が本社の従業員約600弱の老舗総合商社へ就職し、現在アパレル製品の卸営業・海外新規工場開拓をされている方は「生産から販売まで多岐に渡る業務に携われることから、専門知識を身につけることができる上、自分が任される仕事の幅も広がるのではないかな。」と思いついた入社されました。このように自分を磨ける環境かどうかを従業員規模に関係なく会社を見極める目を養って頂きたいと思います。

さて、皆さんいかがでしょうか？ あなたは何を基軸として「働く」を選びますか？

「知らないことを知っていくことが大事」と先ほども述べましたが、ぜひとも、これまで自分が育ってきた身近な地域に、どのような企業があるのか、その企業は誰の為にどんな商品・サービスを提供しているのか、ということにも興味関心を持って調べてみて下さい。そして、将来の自分の選択肢を1つずつ増やし見比べながら、納得のいく企業・仕事を選んで頂きたいと思います。

株式会社リクルート リクナビ副編集長 松尾 信恵

●取材にご協力くださった企業様(五十音順)
アシックス商事株式会社
株式会社池田泉州ホールディングス
生活協同組合コープこうべ
シスメックス株式会社
住友精密工業株式会社
株式会社ハイレックスコーポレーション
富士通テン株式会社

●取材スタッフ
高谷 聡 (工学研究科1年)
深尾 諒 (法学部4年)
原 里乃 (発達科学部4年)
北村 朋子 (文学部3年)
高峰 啓 (発達科学部3年)
神戸 えりな (理学部3年)



仕切りのない、見渡す限りの広大なフロアで開発の業務が行われている 株式会社富士通テン

地元企業の『神大生』がスゴい！！

「関西を盛り上げる」意気込み

福本 吉宏 さん

2008年法学部卒業

株式会社池田銀行

人事総務一部

※社名・所属は取材当時のものです

【大きな責任と裁量ある仕事に活きた「経験」】

福本さんは、池田銀行に入行2年目。1年目の2月に人事総務部に配属となり、新入行員の半年間の研修を任されました。これまでは現場で学ぶスタイルの研修を採用していたため、今回のような講義中心の研修を行うのは初めて。ゼロから全てを作り上げなければなりません。いきなりこんなに大きな責任と裁量のある仕事を任されて、はじめは驚いたそうです。研修を形にし、成功させるために「持てる時間を少しでも多く勉強に充て、アルバイト、サークル、学業などの経験の全てを活かしてやってやろう」という気持ちで取り組みました。研修が始まってからは、研修生に「わからないことがあれば、僕が調べるからどんどん聞いてほしい。僕も勉強になるし、君たちにもフィードバックできるから」と伝え、互いに成長していこうという姿勢で臨みました。

今は、半年間の研修も終わりに近づき、自分が教えた30人の研修生と「これから先何十年と一緒に池田銀行を盛り上げていこう」という気持ちを共有できていることにやりがいを感じているそうです。

【地元貢献できるという魅力】

地元には親族や友人がいて、人間として安心して生活できる。今まで自分を育ててくれた地元は今度は自分が関西の経済を盛り上げるという形で還元していける。このように、心のつなが

りの中で暮らしていけるというのが、地元で働くことの魅力だとおっしゃいます。

【5年後の関西を見据え一生懸命に】

今後の目標は、とにかく言われたことを一生懸命全力でやりきること。そして、今以上に勉強をして、営業の推進と融資の判断の両方のスキルを身につけること。まだ発見されていない良い会社をどんどん見つけること。そうして5年後には、関西を盛り上げようとしている法人のお客様のお手伝いをする事で地元貢献をしていきたいと語っていただきました。



株式会社池田泉州ホールディングス 【池田銀行・泉州銀行】

所在地	〒530-0013 大阪市北区茶屋町18番14号 大阪梅田池銀ビル
業種	銀行
事業内容	普通銀行業務(預金、融資、内国・外国為替、証券、その他付随業務)
設立年	2009年
資本金	500億円
従業員数	<池田銀行>1,240人 <泉州銀行>1,348人(2009年3月31日現在)

約80社による合同企業説明会

JOB Guidance
for Future!

11/20 (金)

12:15~18:30
鶴甲第1キャンパス
第一・第二体育館

入場無料 入退場自由

予約不要 服装自由

(国際文化学部)

主催/神戸大学キャリアセンター 共催/神戸大学生生活協同組合

特徴

① 業界・企業のこと
がわかる！

なんと約80社もの企業が神大に集結！あなたが気になる企業の説明を、開催時間内ならいつでも、いくつでも聞きに行くことができます。

「業界ごとの特色って？」

「〇〇ってどんな企業？」

まずは会場に足を運んでください！

さらに、企業ブースを回るスタンプラリーでは、**食堂利用券**をプレゼント！

【参加予定企業】

アイエイチ・アイマリンユニテッド	ジーエス・ユアサコーポレーション	東京建物	ハイレックスコーポレーション
アクセンチュア	JFE商事	東芝	阪和興業
アシックス商事	JFEスチール	東レ	Hitz日立造船
アスピオファーマ	シスメックス	藤和不動産	富士通エフ・アイ・ピー
アフラック	神姫バス	トクヤマ	富士通テン
池田泉州ホールディングス	新日鉄ソリューションズ	豊田通商	富士フイルム
伊藤忠商事	新日本製鐵	西日本高速道路	みずほ情報総研
NTTコミュニケーションズ	住友ゴム工業	日鐵商事	三井住友銀行
NTTデータ	住友精密工業	日本合成化学工業	三井製糖
大阪ガス	住友生命保険	日本通運	三菱地所
オースビー	住友電気工業	ニトリ	三菱電機
オービック	生活協同組合コープこうべ	日本ガイシ	三菱UFJリソース
カネカ	高島屋	日本写真印刷社	ミツ星ベルト
川崎汽船	武田薬品工業	日本総合研究所	横浜ゴム
川崎重工業	中央三井トラスト・グループ	日本トランスシティ	読売新聞大阪本社
キャンノマーケティングジャパン	千代田化工建設	日本ユニシス	レンゴー
ぐるなび	デンソー	農林中央金庫	など
京阪電気鉄道	東京エレクトロン	ノバシテム	
国際石油開発帝石	東京ガス	野村證券	

特徴

② 少人数で話せる！

ブース形式の個別説明だから、現役技術者や神大OB・OG、採用担当者と少人数でじっくり話せる！質問できる！

特徴

③ 地元企業がわかる！

学生にとっては『聞き慣れない会社』、でも実はスゴいんです！！

特別企画・「**地元優良企業特集**」では、神大の地元・兵庫の**優良企業**と出会えるチャンス☆ ぜひともお見逃しなく！

平成 21 年度末 神戸大学 寄附講座概要

寄附講座名称	教育研究の概要	特命教員数
医学研究科／内科学講座／へき地医療学分野	神戸大学において、へき地医療に関する研究拠点を設置し、現地のニーズに即したへき地医療に関する研究を行うとともに、その研究成果の普及を行い、へき地医療の向上に寄与することを目的とする。	2 名
保健学研究科／膠原病学(富山化学工業)寄附講座	国民生活に重要な影響を及ぼしている難治性の膠原病に対して、新しいゲノム医学及び分子生物学の手法を用いることにより、この領域の研究を推進し教育の充実を図る。 具体的には次の教育研究課題に関する教育及び研究を行う。 1. 膠原病における免疫応答の遷延化機構に関するモデルの構築とその分子生物学的研究 2. 膠原病の新しい治療技術の開発	3 名
医学研究科／内科系講座／小児科学教育研究分野／こども発育学部門	こどもの発育に関する研究拠点を設置し、臨床活動を通じたこどもの発育に関する総合的な研究を行うものである。特に、胎児・周産期に障害をもつ児の出生後の発育については不明な点が多く、その疫学的調査を実施し、その生後発育状況を解明する。その結果に基づき小児の正常な発育を促す治療法の確立をめざすことを目的とする。 そのために以下の研究を実施する。 1. 胎児・周産期発育障害の予後に関する疫学調査 2. こどもの発育障害の疫学的調査 3. 発育障害の病態解明と治療法の確立	2 名
医学研究科／内科系講座／リウマチ学分野	現代の難病である膠原病の中で、もっとも頻度が高く成人女性の 1%が罹患している関節リウマチを主眼に、免疫異常の発症病因の解明を目指した研究を行い、ここで得られた病因研究の成果を基盤にして新しい治療手段を開発するという先端的なトランスレーショナルリサーチを推進する。このことにより、未だに発症病因が詳らかでないリウマチ疾患に関する理解（教育）とそれに対するアプローチ（教育と研究）を通じて、本学の教育、研究及び診療に資することを目指す。	1 名
医学研究科／内科系講座／循環器内科学分野／不整脈先端治療学部門	不整脈治療における非薬物療法に習熟した専門医の育成並びにペースメーカー及び埋込型除細動機の移植技術とカテーテルアブレーション治療技術の習得者の輩出を目指す。また、デバイス植え込み例の日常管理におけるメディカル育成システムを確立する。 不整脈治療における最先端診断治療法の開発拠点としての確立を目指すとともに、地域医療普及のためのワークフローの確立を目指す。	2 名
医学研究科／外科系講座／形成外科学分野／美容医科学部門	本寄附講座は附属病院における美容外科診療科と連携しながら、外貌のアンチエイジングをテーマに新施術法の開発、手術失敗例の検討と改善策、レーザー適応の拡大など実際の臨床的研究を志向し、高齢化社会に向けての美容医科学の体系的発展を目指すものである。	2 名
医学研究科／内科系講座／臨床検査・免疫学分野／立証検査医学部門（シスメックス）	本寄附講座は、臨床検査に関するエビデンスの確立や検査法の経済効果をメタアナリシスや統計モデルなどを用いて解析する一方、診断や治療法選択に直結するような新しい検査法の開発に取り組む。所属教員は神戸大学大学院医学研究科や神戸市先端医療センター、あるいはシスメックス中央研究所などで研究を行うとともに、神戸大学医学部附属病院や関係病院などで、実習や講義を行う。また、神戸大学医学部附属病院検査部での業務や免疫内科での診療も行うものとする。 具体的には以下の研究を実施する。 1. 証拠に基づく臨床診断学 2. 価値に基づく臨床検査評価学 3. 予防検査医学	2 名
医学研究科／内科系講座／小児科学分野／こども急性疾患学部門	本寄附講座は、小児急性疾患に関する研究拠点を設置し、小児急性疾患に関する調査研究を行うとともに、その研究成果の普及を行い、小児急性疾患医療の向上に寄与することを目的とする。 具体的には以下のような教育研究を実施し、地域への貢献を行う。 1. 小児急性疾患に関する疫学調査・研究 2. 小児急性疾患に関する病因・病態解析 3. 小児急性疾患に対する標準治療法に関する研究 4. 小児急性疾患の医学生教育システムの確立 5. 小児急性疾患診療の研修プログラムの研究開発 6. 地域住民への啓発活動 7. 地域医師会員との連携した疫学調査・研究 8. 研究成果に関する普及啓発	2 名
	合 計	16 名

研究活動を発展させるための諸施策への反映事例

研究科等	研究活動を発展させるための諸施策 (研究者や財源の配分等)への反映事例
人文学研究科	○ 評価委員会等における検討を踏まえ、平成 20 年度から「助教」の配置及び職務内容を根本的に見直し、プロジェクト対応型の「助教」の配置を実施している。 ○ 研究科長裁量経費を設け、人文学の諸分野を横断する新しい教育研究を推進するプロジェクトを選定の上、海港都市研究センター、地域連携センター、倫理創成プロジェクト、日本語・日本文化教育インスティテュート及び「共生の人文学」若手研究者グループなどの共同研究組織に対して重点的に配分した。重点配分を受けた研究教育グループは、現代的教育ニーズ取組支援プログラム、大学院教育改革支援プログラム、大型科学研究費補助金、若手研究者海外派遣事業など、外部資金も獲得し、研究科の共通科目を担う仕方東アジア・欧米との国際連携を強めており、人文学研究科の教育研究は大いに活性化している。 ○ 平成 22 年度概算要求に掲げた特別研究費（地域歴史遺産保全活用教育研究にかかわる拠点形成）が採択され、新しい研究領域を開拓するために准教授 1 名・助教 2 名を採用した。 ○ 政策的支援経費の中に教育研究活性化支援経費を設け、若手を中心とした研究プロジェクトに財政的支援をした。修業年限内学位取得者を学術推進研究員として雇用した。 ○ サバティカル制度に関しては、特別研究制度委員会を設置し、教育研究及び部局の行政や社会的活動への貢献度を基準に対象教員を選考した。
国際文化学研究科	○ 平成 19 年度に実施した外部評価により、研究に関しては、部局全体として、「国際文化学」という学際的な学問分野の開拓に更に力を注ぐ必要があるという評価結果を受け、平成 18 年に開所していた異文化研究交流センターに加え、平成 20 年度よりメディア文化研究センターを新たに発足させ、これら 2 つのセンターを「国際文化学」を樹立するための部局における研究の 2 本の柱として、両センターに研究費等の予算を配分した。 ○ 部局の教員配置については、定年退職や転出等により教員ポストに空きが生じたときには、前任者の研究分野や所属コースをそのまま踏襲するのではなく、新たに、評価委員会等の点検結果を踏まえ、人事運営委員会等において、後任補充教員の研究分野や適切な配置講座を検討し、実施している。 ○ 部局独自で実施しているサバティカル制度及び全学制度である若手教員長期海外派遣制度の適用教員の選考については、常設の選考委員会を設けて行っているが、その選考にあたっては、研究計画の適切性、教育活動への貢献度、部局の行政や社会的活動への貢献度とともに研究業績の評価結果を重要な選考基準の柱としている。また、これらの制度の適用教員に対しては、全学共通科目の担当について部局の独自経費によって代替の非常勤講師を措置することとしている。
人間発達環境学研究科	○ 学内共同利用施設等の組織に係る評価において発達支援インスティテュートが、組織全体の連携を図るようにとの評価を受けたことから、改善に向けて取り組んだ結果、ESD コースの運営を通じてヒューマン・コミュニティ創成研究センター、サイエンスショップ等の各組織の関わりが深まっている。また、「正課外活動の充実による大学院教育の実質化」（大学院 GP）、「アクション・リサーチ型 ESD の開発と推進」（現代 GP）による活動は、法人評価等において一定の評価を得ている。このことから、平成 22 年度から新たに ESD 担当の助教を配置し、ヒューマン・コミュニティ創生研究を中核にした研究科の教育・研究をより充実させることとした。 ○ 研究活動に対する支援充実を図るため、評価結果等に基づき審査の上、研究推進支援経費を配分した。また、ヒューマン・コミュニティ創成研究センター（のびやかスペースあーち、カフェアゴラ）における研究活動について、評価結果等に基づき、経費を配分した。
法学研究科	○ 法学研究科評価・FD 委員会において定期的な点検・評価作業を行い、同作業の結果等を踏まえ研究科企画室等で改善の必要性及びその具体的方法について検討を進めている。平成 21 年度には、点検・評価結果等に基づく検討の結果、大学院博士課程在籍者及び法科大学院修了者を採用対象とする助教ポストを新設し、1 名を採用した。 ○ 研究業績等の評価を行い、その結果を法学双書刊行支援や六甲台後援資金の配分等に反映させている。
経済学研究科	○ 評価委員会の点検結果に基づき、大講座を超えた共通枠による人事を行い、情報、留学生、大学院特別プログラムに特化した教員を 5 名採用した。 ○ 教員の研究活動については神戸大学情報データベース（KUID）及び研究科 HP 上で更新させるとともに、優れた研究業績や受賞歴のある教員を、特別昇給の選考にあたって優先している。
経営学研究科	○ 全学的な取組である「学内発の卓越した研究プロジェクト」（ビジネスシステムと人づくりに関する研究）により配置された教員 2 人を、プロジェクトの中間評価や研究科の自己点検・評価の結果を踏まえつつ、研究科教員（定員内）として引き続き配置することとした。また、製品・サービス品質の保証の観点から企業の社会的責任がますます重要性を増している状況に対応し、同分野の研究教育体制の強化を検討し、その結果を踏まえ、同分野のエキスパートである社会人教員を 1 人採用した。 ○ 研究科の重点研究領域であるビジネスシステム及び環境・品質経営に関する研究について、自己点検・評価や学外の専門家による評価の結果を踏まえつつ、研究科長裁量経費や全学的な取組である「教育研究活性化支援経費」から予算の重点配分を行った。

理学研究科	○ 理学研究科において研究業績及び大型外部研究費の取得状況等を研究科長を中心とする執行部において審査し6つの重点研究領域を定め、連携する自然科学先端融合研究環の重点研究チームに対応させるとともに、それぞれのチームに対して各1名の研究環助教を配置した。 ○ 年次報告書に基づく自己点検及び教員間の相互評価などを踏まえて、研究面で評価の高い教員に対して部局長裁量経費による予算の追加配分を実施した。（平成21年度：200千円×5、計1,000千円）。 ○ 各専攻の枠組みを越えた教育研究の効率的・重点的利用と有効な運営を図るため、流動的な共用スペース（12室、延べ343㎡）を整備し、公募による選考に基づき、5つのプロジェクトを入居させている。
医学研究科	○ 人事の流動性及び評価制度の確立による教育研究活動等の活性化を目的として任期制度導入し、個人活動報告書に基づいた厳正な再任審査を行っている。
保健学研究科	○ 研究科長裁量経費を設け、若手研究者に競争的配分を実施するなどの支援を行っている。平成21年度は、8名の申請があり、執行部で評価基準に基づく厳正な審査を行った結果4名を採択した。採択者には翌年度に教員会議において研究成果発表を行わせ、研究進展を触発させる仕組みを設けている。
工学研究科	○ 著書及び論文の表彰・受賞歴に基づき特別昇給等の実施の判断材料としている。 ○ 「神戸大学大学院工学研究科における間接経費の取り扱いについて」に基づき、間接経費の受入教員に対して、一定比率によりインセンティブとして、一般財源（研究費）の配分を行った。また、併せて「神戸大学大学院工学研究科における科学研究費非申請者に対する運営費交付金配分金額の減額処置について」に基づき、運営費交付金配分に当たり非申請者に対して減額し配分を行った。
農学研究科	○ 人事企画調整室を中心に、業績評価により有期雇用制の研究環専任助教を部局専任助教へ採用するなど、評価に基づく適切な教員配置を実施した。 ○ 農学研究科において5つの重点研究領域を定め、連携する自然科学先端融合研究環の重点研究チームに対応させるとともに、それぞれのチームに対して各1名の研究環助教を配置した。 なお、重点研究領域の選定にあたっては、農学研究科のモットーである「農場から食卓までの食料・環境・健康生命」に基づいて、各専攻長から推薦があり、企画室において評価選定した。
海事科学研究科	○ 教員研究費の追加予算配分を実施する際に、教育・研究、管理運営、研究科長裁量、掲載論文等のデータを各教員から申告させ、本研究科で定めた基準に従い、教員毎に獲得したポイントにより、教員追加予算配分（ポイント制）を行った。
国際協力研究科	○ 研究業績（特に国際ジャーナルへの論文掲載、受賞、著書の出版や外部資金の獲得）の評価を六甲台後援会資金の配分や特別昇給等の判断の際の一つの材料にしている。
経済経営研究所	○ 所長裁量経費等を活用して優れた個人研究・共同研究プロジェクトに対して競争的資金配分を行い、平成21年度は個人研究費1件、共同研究費4件、プロジェクト経費3件、計8件で前年度を上回る総額329万円を配分した。